

福島県文化財調査報告書 第502集

# 福島県内遺跡分布調査報告21

2014年11月

福島県教育委員会



## 福島県内遺跡分布調査報告21



## 序 文

福島県教育委員会は、大規模開発等から埋蔵文化財包蔵地を保護するため、開発事業が行われる以前に詳細な分布調査を実施し、関係機関と保存協議を行い、埋蔵文化財の保存に努めております。

平成25年度は、4市1町の区域内で計画された5事業について試掘調査と表面調査を財団法人福島県文化振興財団に委託して実施しました。

浜通り地方では、相馬郡新地町において常磐自動車道建設事業に関連した1箇所の試掘調査及び新地町福田地区土取場に関連した2箇所の試掘調査、相馬市において一般国道115号相馬福島道路建設事業に関連した15箇所の試掘調査を実施しました。いわき市では、主要地方道いわき上三坂小野線(仮称)小名浜道路建設事業に関連した11haの表面調査を実施しました。

中通り地方では、伊達市において一般国道115号相馬福島道路建設事業に関連した3箇所の試掘調査を実施しました。

会津地方では、会津若松市において会津縦貫北道路建設事業に関連した3箇所の試掘調査を実施しました。

試掘調査と表面調査の結果、存在が知られていた遺跡の範囲や内容が明らかになるとともに、これまで知られていなかった遺跡を発見することもできました。

本報告書は、これらとともに平成25年3月に実施した一般国道115号相馬福島道路建設予定地内の表面調査の成果もあわせてまとめたものです。この報告書が、埋蔵文化財の保護や地域の歴史を解明するための基礎資料となり、さらには生涯学習の資料として広く県民の皆様にご活用いただければ幸いです。

最後に、この調査に御協力いただいた当該市町村教育委員会や公益財団法人福島県文化振興財団をはじめ関係機関並びに関係各位に対し深く感謝の意を表します。

平成26年11月

福島県教育委員会

教育長 杉 昭 重



## 緒 言









1. 本書は、平成25年度に実施した常磐自動車道、一般国道115号相馬福島道路、地域高規格道路(会津縦貫北道路)の各建設予定地内及び復興交付金事業(市街地復興効果促進)新地町福田地区土取場候補地内に所在する遺跡及び遺跡推定地(試掘調査により遺跡の存否を確認する地点)の試掘調査、主要地方道いわき上三坂小野線(仮称)小名浜道路の表面調査、及び平成25年3月に実施した一般国道115号相馬福島道路の表面調査の報告書である。
2. この調査は、国庫補助を受け福島県教育委員会が実施した。
3. 福島県教育委員会は、調査を財団法人福島県文化振興財団(平成26年4月1日より公益財団法人福島県文化振興財団に改称)に委託した。
4. 公益財団法人福島県文化振興財団は、下記の職員を配置して調査を実施した。  
文化財主査 丹治 篤嘉  
文化財主事 遠藤 司洋
5. 本書は、公益財団法人福島県文化振興財団(遺跡調査部県内遺跡分布調査担当)の職員が執筆した。
6. 調査にあたっては、地元地権者・地権者会・行政区長をはじめ下記の機関に多くの協力をいただいた。  
新地町教育委員会 相馬市教育委員会 いわき市教育委員会 伊達市教育委員会  
桑折町教育委員会 会津若松市教育委員会  
福島県土木部(いわき建設事務所)  
福島県農林水産部(相双農林事務所)  
国土交通省東北地方整備局(福島河川国道事務所・郡山国道事務所・磐城国道事務所)  
東日本高速道路株式会社東北支社(相馬工事事務所)
7. 事業名称が長いものについては、一部省略した表現を用いている。
8. 本書に使用した遺跡の調査記録及び出土資料は、福島県教育委員会が保管している。

## 用 例

1. 本書における用例は次のとおりである。

- (1) 遺跡及び遺跡推定地の位置図は、国土交通省国土地理院発行縮尺1/25,000の地形図(新地・丸森・相馬中村・青葉・雲山・萩平・磐城泉・保原・月館・会津広田)及び縮尺1/50,000の地形図(小名浜・福島・保原)を、一般国道115号相馬福島道路位置図は、同じく縮尺1/200,000の地形図(福島)を複製したものを使用している。
- (2) トレンチ配置図は、各事業主体作製の縮尺1/1,000・1/2,000・1/2,500地形図を基とした。

2. 本書第2章における遺跡・遺跡推定地及びトレンチ配置図の用例は次のとおりである。

- (1) : 現状保存範囲
- (2) : 未試掘範囲
- (3) : 工事などの実施にあたっては慎重工事の措置をとる必要がある範囲
- (4) : 遺跡推定地で遺構・遺物が確認されず、遺跡として取り扱わないと判断された範囲
- (5) : 遺構・遺物が確認できたトレンチ
- (6) : 遺構・遺物が確認できなかったトレンチ
- (7) : 工事予定範囲
- (8) : 表面調査による遺跡推定範囲

3. 遺跡推定地の名称は便宜上アルファベットの「B」と算用数字を組合せて表記するが、試掘調査によって遺跡であることが確定すれば所在地の字名や地名をとり、新たに遺跡名称を付している。

4. 各遺跡の呼び方は、『日本地名大辞典7福島県』(角川書店)収録の「小字一覧」にならったが、通称が定着しているときは、それに従った。

5. 遺構図の用例は次のとおりである。

- (1) 平面図の縮尺は、基本的に各挿図版の右下(スケール右側)に記した。
- (2) 検出した遺構は、網点で表示した。
- (3) 土色の判定に際しては、『新版標準土色帖』(日本色研事業株式会社)を用いた。

6. 本書で使用した略号は、次のとおりである。

T: トレンチ	L: 遺構外堆積土	ℓ: 遺構内堆積土	SI: 堅穴住居跡
SK: 土坑	SD: 溝跡	SW: 製鉄炉跡	SC: 木炭窯跡
SX: 堅穴状遺構	P: 小穴		
ST: 新地町	SM: 相馬市	IWK: いわき市	DT: 伊達市
QR: 桑折町	AW: 会津若松市		



# 目 次

第1章 遺跡分布調査の概要	1	
第2章 試掘調査	3	
第1節 常磐自動車道建設予定地	3	
鴻ノ巣遺跡(3)		
第2節 一般国道115号相馬福島道路建設予定地	4	
(1) 相馬市の遺跡		
SM-B①(8)	SM-B②(9)	SM-B③(9)
SM-B④(10)	SM-B⑤〔東羽黒平遺跡〕(10)	SM-B⑥(12)
SM-B⑦(13)	SM-B⑧(13)	SM-B⑨(14)
SM-B⑩(14)	SM-B⑪(15)	SM-B⑫(15)
SM-B⑬〔姥ヶ岩遺跡〕(17)	SM-B⑭(18)	SM-B⑮〔向山遺跡〕(19)
(2) 伊達市の遺跡		
DT-B14〔川向遺跡〕(21)	渋谷館跡(22)	前柳館跡(23)
第3節 地域高規格道路(会津縦貫北道路)建設予定地	24	
AW-B2〔船沼B・C遺跡〕(24)	AW-B4(26)	AW-B5〔西坂才遺跡〕(27)
第4節 復興交付金事業(市街地復興効果促進)新地町福田地区土取場候補地	28	
ST-FD. B1〔北原製鉄遺跡〕(28)	ST-FD. B2〔小輪遺跡〕(31)	
第3章 表面調査	32	
第1節 一般国道115号相馬福島道路建設予定地	32	
第2節 主要地方道いわき上三坂小野線(仮称)小名浜道路建設予定地	35	
第4章 総括	37	

# 挿図・表・写真目次

## 【挿 図】

第1章	
図1 箱内道路分布調査位置図	1
第2章	
図2 新地町の道路	3
図3 溝ノ尾道路トレンチ配置図	4
図4 一般国道115号相馬福島道路位置図	4
図5 相馬市の道路(1)	5
図6 相馬市の道路(2)	6
図7 伊達市の道路	7
図8 SM-B①トレンチ配置図	8
図9 SM-B②トレンチ配置図	9
図10 SM-B③トレンチ配置図	9
図11 SM-B④トレンチ配置図	10
図12 SM-B⑤トレンチ配置図・検出遺構・土層柱状図	11
図13 SM-B⑥トレンチ配置図	12
図14 SM-B⑦・B⑧トレンチ配置図	13
図15 SM-B⑨トレンチ配置図	14
図16 SM-B⑩トレンチ配置図	14
図17 SM-B⑪トレンチ配置図・検出遺構・SM-B⑫トレンチ配置図	16
図18 SM-B⑬検出遺構	17
図19 SM-B⑭トレンチ配置図・土層柱状図	18
図20 SM-B⑮トレンチ配置図	19

## 【表】

第1章	
表1 常磐自動車道試掘調査道路一覧	2
表2 相馬福島道路試掘調査道路一覧	2
表3 地域高規格道路(会津縦貫北道路)試掘調査道路一覧	2
表4 復興交付金事業(市街地復興効果促進)新地町福田地区土取場試掘調査道路一覧	2
第2章	
表5 新地町所在道路試掘調査成果一覧	3
表6 相馬市・伊達市所在道路試掘調査成果一覧	6
表7 SM-B⑤トレンチ一覧	12
表8 SM-B⑥トレンチ一覧	15
表9 SM-B⑦トレンチ一覧	17
表10 SM-B⑧トレンチ一覧	19
表11 D-T-B14(川内道路)トレンチ一覧	21
表12 会津若松市所在道路試掘調査成果一覧	24
表13 AW-B2(鶴沼B・C道路)トレンチ一覧	25
表14 新地町所在道路試掘調査成果一覧	28
表15 S-T-FD、B1トレンチ一覧	30
表16 S-T-FD、B2トレンチ一覧	31

## 【写 真】

第2章	
1 8号トレンチ土塊検出状況(東から)	10
2 3号トレンチ土塊全景(南から)	15
3 31号トレンチ土塊全景(北東から)	15
4 15号トレンチ水浸露跡検出状況(西から)	17
5 調査区東部全景(南から)	19
6 作業風景(南東から)	21
7 41号トレンチ露跡検出状況(東から)	24
8 調査区中央部全景(南西から)	28
9 120号トレンチ全景(南西から)	30
10 3号トレンチ土塊検出状況(北西から)	31

図21 SM-B⑯トレンチ配置図	20
図22 SM-B⑰検出遺構・土層柱状図	21
図23 D-T-B14(川内道路)トレンチ配置図・土層柱状図	22
図24 浜谷郡跡・前柳船跡トレンチ配置図・土層柱状図	23
図25 会津若松市の道路	24
図26 AW-B2(鶴沼B・C道路)トレンチ配置図	25
図27 AW-B2(鶴沼B・C道路)検出遺構・土層柱状図	26
図28 AW-B4トレンチ配置図	26
図29 AW-B5(西取才道路)トレンチ配置図	27
図30 新地町の道路	28
図31 S-T-FD、B1・S-T-FD、B2トレンチ配置図	29
図32 S-T-FD、B1検出遺構・土層柱状図	30
図33 S-T-FD、B2検出遺構・土層柱状図	31

## 第3章

図34 相馬福島道路(雲山道路・雲山IC～福島北JCT間)子定路線と道路・道路予定地(1)	33
図35 相馬福島道路(雲山道路・雲山IC～福島北JCT間)子定路線と道路・道路予定地(2)	34
図36 主要地方道いわき上三坂小野線(仮称)小名浜道路子定路線と道路・道路予定地	36

## 第3章

表17 相馬福島道路(雲山道路・雲山IC～福島北JCT間)間道道路一覧	32
表18 主要地方道いわき上三坂小野線(仮称)小名浜道路間道道路一覧	35

## 第4章

表19 常磐自動車道間道試掘調査対象道路成果一覧(新地町)	37
表20 相馬福島道路(相馬西道路)間道試掘調査対象道路成果一覧(相馬市)	39
表21 相馬福島道路(阿武隈東1C～阿武隈1C間)間道試掘調査対象道路成果一覧(相馬市・伊達市)	39
表22 相馬福島道路(雲山道路)間道試掘調査対象道路成果一覧(伊達市)	39
表23 会津縦貫北道路間道試掘調査対象道路成果一覧(会津若松市)	40
表24 新地町福田地区土取場間道試掘調査対象道路成果一覧(新地町)	40

## 第3章

11 1WK-B1全景(南東から)	35
12 1WK-B13全景(南から)	35

## 第1章 遺跡分布調査の概要

平成25年度は、4事業3市1町についての試掘調査、及び1事業1市の表面調査を財団法人福島県文化振興財団に委託して実施した。

### 【常磐自動車道】

新地町における計画路線内の遺跡である鴻ノ巣遺跡50㎡を対象に試掘調査を実施した。

### 【一般国道115号相馬福島道路】

相馬市・伊達市における計画路線内の18箇所計94,600㎡の遺跡・遺跡推定地を対象に試掘調査を実施した。相馬市市内では、SM-B①・SM-B②・SM-B③・SM-B④・SM-B⑤・SM-B⑨・SM-B⑩・SM-B⑪・SM-B⑬・SM-B⑭・SM-B⑮・SM-B⑯・SM-B⑰・SM-B⑱・SM-B⑳の15箇所計80,850㎡の試掘調査を実施した。伊達市内では、渋谷館跡・前柳館跡・DT-B14(川向遺跡)の3箇所計13,750㎡の試掘調査を実施した。

なお、SM-B⑤・SM-B⑯・SM-B⑱・DT-B14(川向遺跡)については、試掘調査終了後に本発掘調査を行っている。

### 【地域高規格道路(会津縦貫北道路)】

会津若松市における計画路線内のAW-B2(鶴沼B・C遺跡)・AW-B4・AW-B5(西坂才遺跡)の3箇所計13,800㎡を対象に試掘調査を実施した。なお、AW-B2(鶴沼B・C遺跡)・AW-B5(西坂才遺跡)については、試掘調査終了後に本発掘調査を行っている。

### 【復興交付金事業(市街地復興効果促進)新地町福田地区土取場】

新地町福田地区土取場候補地内における遺跡推定地であるST-FD、B1・ST-FD、B2の2箇所計18,000㎡を対象に試掘調査を実施した。

### 【表面調査】

平成25年度の表面調査は、いわき市の主要地方道いわき上三坂小野線(仮称)小名浜道路建設に伴う計画路線内8km、11haについて実施した。周知の遺跡3箇所の範囲を確認し、13箇所の遺跡推定地を新たに確認した。

平成25年3月に実施した一般国道115号相馬福島道路の表面調査では、伊達市霊山町下小国地区～桑折町松原地区の610haを対象とし、合計28箇所の遺跡・遺跡推定地を確認した。伊達市内では、周知の遺跡3箇所の範囲を拡張変更し、新たに発見した1箇所の遺跡と15箇所の遺跡推定地を確認した。また、4箇所の遺跡・遺跡推定地の範囲を再確

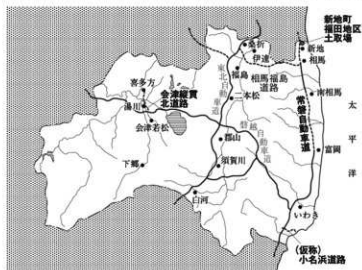


図1 県内遺跡分布調査位置図

第1章 遺跡分布調査の概要

認した。桑折町地内では、1箇所の周知の遺跡と4箇所の遺跡推定地を確認した。なお、平成25年1月に財団法人福島県文化振興財団に委託して実施したMSC-KZ、B1（天化沢A遺跡）の試掘調査については、平成25年度に福島県教育委員会で実施した試掘調査結果と併せて別添報告することとした。

表1 常磐自動車道試掘調査遺跡一覧

名称	所在地	立地	調査期間	トレンチ	備考
鴻ノ巣遺跡	新地町駒ヶ嶺字鴻ノ巣	丘陵	4/26	2本	15%

表2 相馬福島道路試掘調査遺跡一覧

名称	所在地	立地	調査期間	トレンチ	備考
S M - B ①	相馬市山上字荒屋鋪	記室原～沖積地	5/27～5/28	3本	5.3%
S M - B ②	今田字山野	沖積地	5/28～6/4	3本	5.5%
S M - B ③	今田字久保前	沖積地	5/21	4本	10.8%
S M - B ④	今田字久保前・敷内	沖積地	5/23～5/27, 10/29～10/31	6本	11.6%
S M - B ⑤	今田字東羽黒平・湯在小路	沖積地～段丘面	5/14～5/24, 6/10～6/14, 9/11～9/12	25本	5.4% 「東羽黒平遺跡」に名称変更
S M - B ⑥	山上字横川	丘陵西向き斜面	11/20～11/22	4本	4.3%
S M - B ⑦	山上字横川	段丘面	5/7～5/14, 11/18～11/19	5本	8.1%
S M - B ⑧	山上字釜本	段丘面	5/7～5/10	2本	6.1%
S M - B ⑨	山上字岡ノ次郎	丘陵西向き斜面	6/5～6/7	7本	2.5%
S M - B ⑩	山上字岡ノ次郎	丘陵南向き緩斜面	4/15～4/25	28本	6.3%
S M - B ⑪	東玉野字礎ヶ岩	丘陵北向き緩斜面	7/17～8/1, 12/12	17本	4.5%
S M - B ⑫	東玉野字須場	丘陵	6/10～7/1	40本	7.5%
S M - B ⑬	東玉野字礎ヶ岩・須場	丘陵西向き緩斜面	7/1～7/17	22本	3.6% 「礎ヶ岩遺跡」に名称変更
S M - B ⑭	東玉野字須場	丘陵～丘陵裾部	7/31～8/9	11本	3.3%
S M - B ⑮	東玉野字向山・町裏	丘陵～丘陵裾部	10/7～11/12	44本	3.5% 「向山遺跡」に名称変更
D T - B 14 (川向遺跡)	伊達市霊山町石田字川向・庚申向	段丘面～丘陵裾部	10/23～11/15	18本	4.9%
渋谷船跡	月館町御代田字渋谷	丘陵	8/26～9/2, 10/1～10/4, 12/16～12/20	16本	2.6%
前柳船跡	月館町御代田字猪作	丘陵	9/2～9/6	6本	4.4%

表3 地域高規格道路（会津縦貫北道路）試掘調査遺跡一覧

名称	所在地	立地	調査期間	トレンチ	備考
AW-B 2 (間沼B・C遺跡)	会津若松市高野町中沼字橋沼、 木流字橋本	沖積地	4/16～4/24	24本	13.3%
AW-B 4	中沼字沼木	沖積地	4/11～4/16	31本	8.3%
AW-B 5 (西坂才遺跡)	中沼字西坂才	沖積地	5/14～5/17	7本	4.5%

表4 復興交付金事業（市街地復興効果促進）新地町福田地区土取場試掘調査遺跡一覧

名称	所在地	立地	調査期間	トレンチ	備考
ST - FD. B 1	新地野福田字北原	丘陵	11/25～12/12	23本	1.5% 「北原製鉄遺跡」に含める
ST - FD. B 2	福田字小船・鉄炮町	丘陵	12/3～12/13	28本	2.5% 「小船遺跡」に名称変更

〔注〕：表中のトレンチ内の%は、今年度の試掘調査対象面積に対するトレンチ面積の割合を示す。

## 第2章 試掘調査

### 第1節 常磐自動車道建設予定地

常磐自動車道は、埼玉県三郷市の三郷インターチェンジ（以下、ICと略す）を起点として、千葉県、茨城県、福島県を通り、宮城県亶理郡亶理町の亶理ICを終点とする高速道路である。現在、東日本高速道路株式会社東北支社が事業を進めており、三郷ICから常磐富岡IC、南相馬ICから相馬IC、山元ICから亶理IC間は供用している。福島県内における試掘調査は浜通り地方南端のいわき市から開始され、平成24年度までに相馬市までの試掘調査が終了している。

平成25年度は、工区が一部変更されたため新地町の遺跡1箇所の試掘調査を実施した。

表5 新地町所在遺跡試掘調査成果一覧

No.	遺跡名	遺跡工区内面積	平成25年度調査		未試掘面積	平成25年度検出遺構・出土遺物	
			調査対象面積	保存面積		検出遺構	出土遺物
1	鴻ノ巣	4,050㎡	50㎡	0㎡	0㎡		
新地町計		4,050㎡	50㎡	0㎡	0㎡		



図2 新地町の遺跡

#### 1. 鴻ノ巣遺跡（第2次調査）

所在地 新地町駒ヶ嶺字鴻ノ巣

調査対象面積 50㎡ トレンチ数 2本 保存面積 0㎡

調査期間 平成25年4月26日 検出遺構 なし 出土遺物 なし

【概要】 鴻ノ巣遺跡は、平成10年度の表面調査において、縄文土器と石器が採取されたことにより登録された遺跡である（『福島県内遺跡分布調査報告5』）。立田川北岸の段丘縁辺に位置し、東西に延びる小高い丘陵地に立地している。北に赤柴前遺跡、南側の立田川を挟んだ20m程の下位段丘面には駒ヶ嶺山神

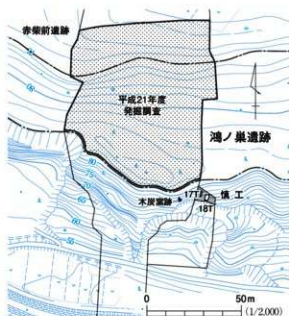


図3 鴻ノ巣遺跡トレンチ配置図

遺跡が隣接する。平成19年度に試掘調査〔福島県内遺跡分布調査報告14〕、平成21年度に本発掘調査が実施された〔常磐自動車道遺跡調査報告66〕。

その後、常磐自動車道の建設工事が進められた際、平成21年度に発掘調査を行った南側の法面から奈良・平安時代の木炭窯跡が発見され、追加で調査された。今回の試掘調査は、工事計画の変更により新たに工区となった箇所が、この木炭窯跡が発見されたすぐ東側の隣接地であることから、50mの範囲を対象に、トレンチ2本を設定して行った。

【まとめ】試掘調査の結果、各トレンチから遺構・遺物は確認されなかった。このことから、今回の工区内調査範囲については、保存の必要はないが、工事などの実施にあたっては慎重に行う必要がある。

## 第2節 一般国道115号相馬福島道路建設予定地

一般国道115号相馬福島道路は、常磐自動車道と東北自動車道を結ぶ約45kmの高規格幹線道路（自動車専用道路）として計画され、東日本大震災からの早期復興を図る復興支援道路として緊急に整備されることとなった。現在、相馬IC～相馬西IC（仮称）間（相馬西道路）及び相馬西IC（仮称）～阿武隈東IC（仮称）間（阿武隈東道路）の2区間を国土交通省東北地方整備局磐城国道事務所が、阿武隈東IC（仮称）



図4 一般国道115号相馬福島道路位置図





～阿武隈IC（仮称）間、阿武隈IC（仮称）～霊山IC（仮称）間（霊山道路）及び霊山IC（仮称）～福島北ジャンクション（仮称。※以下、ジャンクションはJCTと略す）間の3区間を国土交通省東北地方整備局福島河川国道事務所が事業を進めている。

阿武隈東道路は、平成14年度より表面調査を、平成18年度より試掘調査をそれぞれ開始し、平成21年度には本発掘調査まで終了した。他区間の表面調査は、平成18・21年度に霊山道路、平成23年度に相馬西

表6 相馬市・伊達市所在遺跡試掘調査成果一覧

No	遺跡名	遺跡工区内面積	平成25年度調査		未試掘面積	平成25年度検出遺構・出土遺物	
			調査対象面積	保存面積		検出遺構	出土遺物
1	SM-B①	7,600㎡	850㎡	0㎡	6,750㎡		土師器
2	SM-B②	5,900㎡	1,100㎡	0㎡	4,800㎡		土師器
3	SM-B③	600㎡	600㎡	0㎡	0㎡		土師器
4	SM-B④	1,400㎡	1,400㎡	0㎡	0㎡		土師器、石器
5	SM-B⑤	13,900㎡	9,900㎡	4,800㎡	4,000㎡	土坑、小穴、遺物包含層	縄文土器、石器、土師器、須恵器、陶器
6	SM-B⑨	4,200㎡	1,000㎡	0㎡	3,200㎡		
7	SM-B⑩	900㎡	900㎡	0㎡	0㎡		縄文土器、石器
8	SM-B⑪	500㎡	500㎡	0㎡	0㎡		
9	SM-B⑬	1,600㎡	1,600㎡	0㎡	0㎡		
10	SM-B⑭	7,500㎡	7,500㎡	0㎡	0㎡		縄文土器
11	SM-B⑳	17,700㎡	7,300㎡	0㎡	0㎡		
12	SM-B㉔	10,100㎡	10,100㎡	0㎡	0㎡	土坑	
13	SM-B㉖	11,100㎡	11,100㎡	1,000㎡	0㎡	木炭燻跡	石器
14	SM-B㉗	6,500㎡	6,500㎡	0㎡	0㎡		縄文土器
15	SM-B㉘	25,000㎡	20,500㎡	5,300㎡	4,500㎡	土坑	縄文土器
1	DT-B14 (川向)	9,200㎡	6,750㎡	1,900㎡	1,600㎡	遺物包含層	縄文土器
2	渋谷船跡	5,200㎡	5,200㎡	0㎡	0㎡		
3	前柳船跡	2,100㎡	1,800㎡	0㎡	300㎡		
相馬市・伊達市 計		131,000㎡	94,600㎡	13,000㎡	25,150㎡		



図6 相馬市の遺跡（2）



道路、平成24年度に阿武隈東IC～阿武隈IC間をそれぞれ実施した（『福島県内遺跡分布調査報告14・17・19・20』）。また、平成25年3月には霊山IC～福島北JCT間の表面調査を実施した（詳細第3章）。このうち、阿武隈東IC～阿武隈IC間及び霊山道路の試掘調査は、平成24年度より開始し、霊山道路の3箇所の遺跡及び1箇所の遺跡推定地について終了した（『福島県内遺跡分布調査報告20』）。

平成25年度の試掘調査は、相馬西道路の10箇所、阿武隈東IC～阿武隈IC間の6箇所、霊山道路の2箇所の計18箇所の遺跡及び遺跡推定地で実施した。



図7 Iizumi市の遺跡



## 2. SM-B②

所在地 相馬市今田字山野  
 調査期間 平成25年5月28日～6月4日  
 調査対象面積 1,100㎡ トレンチ数 3本  
 保存面積 0㎡  
 検出遺構 なし  
 出土遺物 土師器

【概要】 SM-B②は、土師器・須恵器が採取されたことから、平成23年度に新たに追加された遺跡推定地である（『福島県内遺跡分布調査報告19』）。宇多川右岸の沖積地に立地するが、調査区中央部～南部は自然堤防状の微高地となっている。現況は畑・荒地・宅地である。

【まとめ】 試掘調査の結果、各トレンチは表土直下が氾濫原の砂層・礫層であり、遺構は確認されなかった。遺物は、3Tから土師器片1点が出土したが、盛土中からの出土である。よって、今回の工区内調査範囲は、遺跡として扱わない。



図9 SM-B②トレンチ配置図

## 3. SM-B③

所在地 相馬市今田字久保前  
 調査期間 平成25年5月21日  
 調査対象面積 600㎡ トレンチ数 4本  
 保存面積 0㎡  
 検出遺構 なし  
 出土遺物 土師器

【概要】 SM-B③は、周知の遺跡である台畑遺跡の南側に隣接する沖積地に立地し、平成23年度の表面調査で土師器が採取されたことから、新たに追加された遺跡推定地である（『福島県内遺跡分布調査報告19』）。現況は水田である。

【まとめ】 試掘調査の結果、各トレンチから遺構は確認されなかった。遺物は、2Tから土師器片3点が出土したが、水田造成時の盛土中からの出土で、他所からの混入と思われる。よって、今回の工区内調査範囲は、遺跡として扱わない。

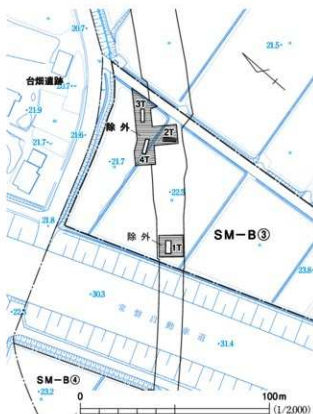


図10 SM-B③トレンチ配置図

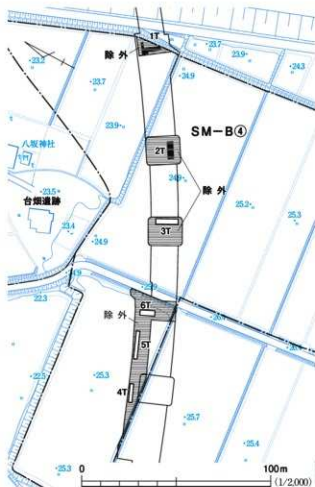


図11 SM-B④トレンチ配置図

#### 4. SM-B④

所在地 相馬市今田字久保前・森内  
 調査対象面積 1,400㎡ トレンチ数 6本  
 保存面積 0㎡  
 調査期間 平成25年5月23日～27日  
 平成25年10月29日～31日

検出遺構 なし

出土遺物 土師器、石器

**【概要】** SM-B④は、周知の遺跡である台畑遺跡の南側に隣接する沖積地に立地することから、新たに追加された遺跡推定地である（『福島県内遺跡分布調査報告19』）。現況は水田である。

**【まとめ】** 試掘調査の結果、各トレンチから遺構は確認できなかった。遺物は、1Tから土師器片4点と石器1点、2Tから土師器片2点が出土した。1Tの土師器片は盛土中からの出土だが、他の遺物は旧表土中からの出土のため、トレンチを拡張して調査を行った。しかし、これ以外の遺物は確認されなかった。よって、今回の工区内調査範囲については、遺跡として扱わない。

#### 5. SM-B⑤ （東羽黒平遺跡） [東羽黒平遺跡]

所在地 相馬市今田字東羽黒平・湯在小路  
 調査対象面積 9,900㎡ トレンチ数 25本  
 保存面積 4,800㎡  
 調査期間 平成25年5月14日～24日  
 平成25年6月10日～14日  
 平成25年9月11日～12日

検出遺構 土坑、小穴、遺物包含層

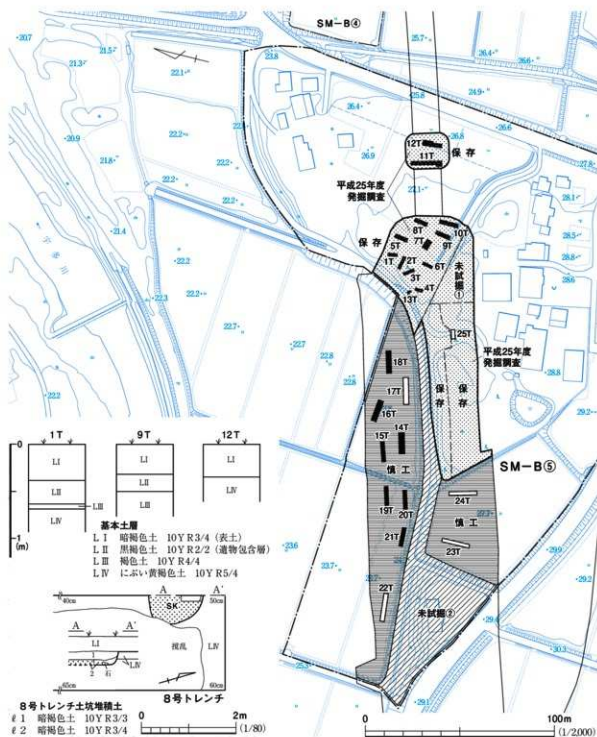
出土遺物 縄文土器、石器、土師器、須恵器、陶器

**【概要】** SM-B⑤は、平成23年度の表面調査において、縄文土器の破片が採取されたことから新たに追加された遺跡推定地である（『福島県内遺跡分布調査報告19』）。工区内面積は13,900㎡である。宇多川右岸の沖積地～河岸段丘面に立地し、現況は水田・畑・山林・宅地である。平成25年度の試掘調査は、工区内の9,900㎡を対象に、トレンチ25本を設定して行った。

**【遺構・遺物】** 遺構は、調査区東部（1～13T）の8Tで土坑1基、12Tで小穴3基を確認した。遺構の検出面は、基盤層としたふい黄褐色土層（IV層）上面である。また、1～4・6・9・10Tで縄文時代後期



1 8号トレンチ土坑検出状況（東から）



の遺物包含層を確認した。遺物包含層は、II層とした黒褐色土層で、20cm前後の厚さで堆積している。調査区東部では、遺物は全てのトレンチから出土し、特に遺物包含層を確認したトレンチからは多量出土した。出土した縄文土器は、後期前葉頃の深鉢が大半で、石器は磨製石斧・打製石斧・石鎌などが認められた。

調査区北部の水田部(14～22T)では、遺構は確認されなかったが、14～16・18～21Tから遺物が各1・2点出土した。しかし、いずれも磨滅が著しい小片で、河川の氾濫などによって流れ込んできたものと思われる。調査区南部(25T)では、遺構・遺物は確認されなかったが、調査区東部から続く段丘面の地形が遺



表7 SM-B⑤トレンチ一覧

トレンチ 番号	検出遺構			出土遺物	トレンチ 番号	検出遺構			出土遺物
	種類 (時代)	確認面 までの深さ	遺構内 掘込み			種類 (時代)	確認面 までの深さ	遺構内 掘込み	
1 T	遺物包含層 (縄文)	40cm	○	縄文土器、石器	11 T				縄文土器
2 T	遺物包含層 (縄文)	30cm	○	縄文土器、石器	12 T	小穴	20cm	×	縄文土器、石器
3 T	遺物包含層 (縄文)	30cm	○	縄文土器、石器	13 T				縄文土器
4 T	遺物包含層 (縄文)	20cm	×	縄文土器、石器	14 T				縄文土器
5 T				縄文土器、石器	15 T				縄文土器
6 T	遺物包含層 (縄文)	35cm	○	縄文土器、石器	16 T				縄文土器、土師器
7 T				縄文土器	18 T				縄文土器
8 T	土坑	30cm	○	縄文土器	19 T				縄文土器、須恵器、陶器
9 T	遺物包含層 (縄文)	20cm	×	縄文土器	20 T				縄文土器、土師器、須恵器
10 T	遺物包含層 (縄文)	25cm	×	縄文土器	21 T				土師器、陶器

存在していることを確認した。一方、調査区西部(23・24 T)では、1.5～2 mと厚く堆積する盛土層の直下が砂礫層で、旧地形は沢状にくぼんでいることを確認した。

**【ま と め】** 試掘調査の結果、調査区内において遺構・遺物を確認した調査区東部(1～13 T)の2,100㎡については、保存の必要がある。また、この保存箇所と地形が連続する調査区南部(25 T)の2,200㎡と未試掘①の500㎡についても、遺構・遺物が埋没している可能性が高いため、保存範囲とした。以上のことから、SM-B⑤の保存面積は、合計4,800㎡である。本遺跡推定地は東羽黒平遺跡として登録する。これ以外は保存対象外とするが、工事などの実施にあたっては慎重に行う必要がある。

なお、確定した保存面積4,800㎡のうち、3,500㎡を対象として平成25年度に本発掘調査を実施した。調査区西部の未試掘②(3,500㎡)は、試掘調査の必要がある。

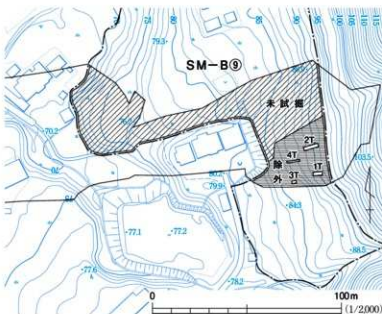


図13 SM-B⑤トレンチ配置図

丘陵の西向き斜面に立地し、現況は畑・荒地である。平成25年度の試掘調査は、工区内の1,000㎡を対象に、トレンチ4本を設定して行った。

**【ま と め】** 試掘調査の結果、各トレンチは現表土直下が基盤層で、旧表土の形成もなく、遺構・遺物は確認されなかった。このことから、今回の工区内調査範囲については、遺跡として扱わない。なお、本遺跡推定地の未試掘範囲は、3,200㎡である。

## 6. SM-B⑥

所在地	相馬市山上字横川
調査対象面積	1,000㎡
トレンチ数	4本
保存面積	0㎡
調査期間	平成25年11月20～22日
検出遺構	なし
出土遺物	なし

**【概要】** SM-B⑥は、平成23年度に実施した表面調査の際に、縄文土器の破片が採取されたことから新たに追加された遺跡推定地である(『福島県内遺跡分布調査報告

## 7. SM-B⑩

所在地 相馬市山上字横川  
 調査対象面積 900㎡ トレンチ数 5本  
 保存面積 0㎡  
 調査期間 平成25年5月7日～14日  
 平成25年11月18日～19日

検出遺構 なし

出土遺物 縄文土器、石器

【概要】 SM-B⑩は、周知の遺跡である横川遺跡の南側に隣接する河岸段丘に位置することから、新たに追加された遺跡推定地である（『福島県内遺跡分布調査報告19』）。現況は水田・宅地である。

【まとめ】 試掘調査の結果、2Tでは、旧表土とした黒褐色土層（II層）中から縄文時代中期前半の土器片と石器が出土した。このため、トレンチを拡張して調査を行ったが、遺構は確認されなかった。今回の調査で、工事の掘削が及ぶ範囲における、II層の掘り下げは終了した。また、2T以外のトレンチからは、遺構・遺物は確認されなかった。

このことから、今回の工区内調査範囲については、遺跡として扱わない。

## 8. SM-B⑪

所在地 相馬市山上字並木  
 調査対象面積 500㎡ トレンチ数 2本  
 保存面積 0㎡  
 調査期間 平成25年5月7日～10日

検出遺構 なし

出土遺物 なし

【概要】 SM-B⑪は、平成23年度に実施した表面調査の際に、新たに追加された遺跡推定地である（『福島県内遺跡分布調査報告19』）。宇多川左岸の河岸段丘面に立地し、現況は水田である。

【まとめ】 試掘調査の結果、各トレンチから遺構・遺物は確認されなかった。よって、今回の工区内調査範囲については、遺跡として扱わない。

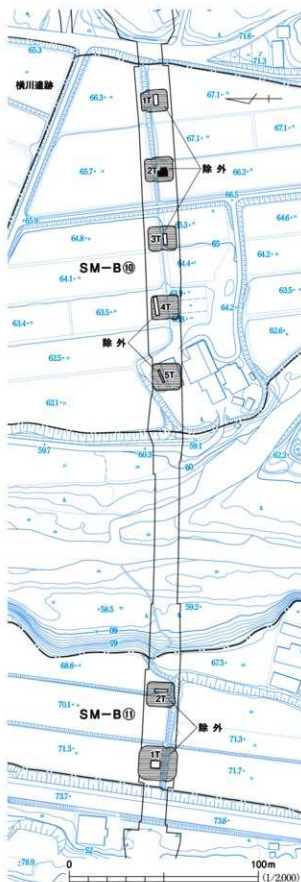


図14 SM-B⑩・B⑪トレンチ配置図

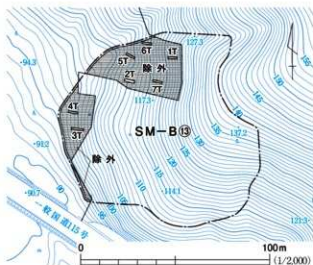


図15 SM-B⑬トレンチ配置図

【ま と め】 試掘調査の結果、各トレンチから遺構・遺物は確認されなかった。このことから、今回の工区内調査範囲については、遺跡として扱わない。

### 9. SM-B⑬

所在地 相馬市山上字間ノ次郎  
 調査対象面積 1,600㎡ トレンチ数 7本  
 保存面積 0㎡  
 調査期間 平成25年6月5日～7日  
 検出遺構 なし  
 出土遺物 なし

【概 要】 SM-B⑬は、平成23年度に実施した表面調査の際に、新たに追加された遺跡推定地である(『福島県内遺跡分布調査報告19』)。丘陵西向き斜面に立地し、現況は山林である。

### 10. SM-B⑭

所在地 相馬市山上字間ノ次郎  
 調査対象面積 7,500㎡ トレンチ数 28本  
 保存面積 0㎡

調査期間 平成25年4月15日～25日  
 検出遺構 なし  
 出土遺物 縄文土器

【概 要】 SM-B⑭は、縄文土器片が採取されたことから、平成23年度に新たに追加された遺跡推定地である(『福島県内遺跡分布調査報告19』)。丘陵南向き緩斜面に立地し、現況は山林である。

【ま と め】 試掘調査の結果、各トレンチから遺構は確認されなかった。遺物は、9・24・28Tから縄文土器片が各1・2点出土したが、いずれも表土中からの出土で、他所からの混入と思われる。また、1～3・5～9Tでは旧表土が遺存していたが、層中から遺物の出土は認められなかった。このことから、今回の工区内調査範囲については、遺跡として扱わない。

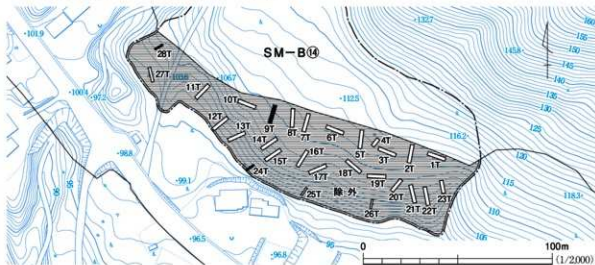


図16 SM-B⑭トレンチ配置図



## 11. SM-B② (第2次調査)

所在地 相馬市東玉野字姥ヶ岩  
 調査対象面積 7,300㎡ トレンチ数 17本  
 保存面積 0㎡  
 調査期間 平成25年7月17日～8月1日  
 平成25年12月12日

検出遺構 なし

出土遺物 なし



2 3号トレンチ土坑全景(南から)

**【概要】** SM-B②は、平成15年度に実施した表面調査において、SM-B③として新たに追加された遺跡推定地である(『福島県内遺跡分布調査報告9』)。その後、平成24年度にSM-B②と改称された(『福島県内遺跡分布調査報告20』)。丘陵北向き緩斜面に立地し、現況は畑・荒地・山林である。

平成20年度の第1次試掘調査では、工区内の10,400㎡を対象にトレンチ12本を設定して行ったが、3Tの土坑1基以外は、遺構・遺物は確認されなかった。このため、土坑が確認された周辺の20㎡を保存範囲とし、3T南側に残る未試掘部分の調査成果を踏まえた上で、再度保存範囲の確定を行うとした(『福島県内遺跡分布調査報告15』)。平成25年度の調査は、3T南側の未試掘部分を含む工区内7,300㎡を対象とした。

**【まとめ】** 試掘調査の結果、各トレンチから遺構・遺物は確認されなかった。このことから、今回の工区内調査範囲については、遺跡として扱わない。なお、第1次試掘調査で保存範囲とした20㎡については、3Tの南側の調査区に設定した13～19Tから遺構・遺物が確認されなかったため、検出された土坑のみを調査した。土坑は、周辺の土地造成により上部は削平されているが、平面形は幅60cm前後、長さ約200cmの長方形で、底面から小穴が2基確認された。これらの規模や形状から縄文時代の落し穴と考えられる。

以上のことから、工区内調査範囲におけるSM-B②の調査はすべて終了した。

## 12. SM-B⑤

所在地 相馬市東玉野字須場  
 調査対象面積 10,100㎡ トレンチ数 40本  
 保存面積 0㎡  
 調査期間 平成25年6月10日～7月1日  
 検出遺構 土坑  
 出土遺物 なし



3 31号トレンチ土坑全景(北東から)

**【概要】** SM-B⑤は、平成24年度に実施した表面調査において、新たに追加された遺跡推定地である(『福島県内遺跡分布調査報告20』)。丘陵部に立地し、調査区の地形は丘陵尾根及び丘陵北～北西斜面である。現況は山林である。平成25年度の試掘調査は、工区内の10,100㎡を対象に、トレンチ40本を設定して行った。

**【遺構・遺物】** 遺構は、31Tから土坑を1基確認した。しかし、これ以外のトレンチからは、遺構・遺物

表8 SM-B⑤トレンチ一覧

トレンチ番号	検出遺構			出土遺物
	種類(時代)	確認面までの深さ	遺構内での高さ	
31T	土坑(縄文)	50cm	○	

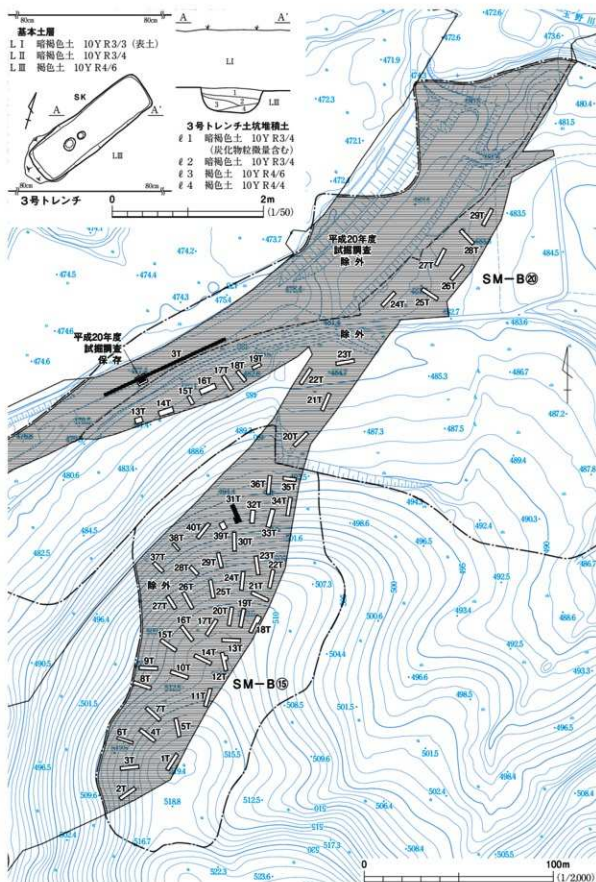


図17 SM-B20トレンチ配置図・検出遺構, SM-B15トレンチ配置図

は確認されなかった。このため、31 Tで検出された土坑の調査を行った。

遺構の検出面は、基盤層とした黄褐色土層(Ⅲ層)上面である。規模は、長軸約270cm、短軸約150cm。検出面からの深さは120～180cmである。平面形は楕円形で、底面には径約10cm、深さ約25cmの小穴が2基確認された。

これらの規模や形状から、31 Tの土坑は、縄文時代の落し穴と考えられる。

**【まとめ】** 試掘調査の結果、確認された遺構・遺物は31 Tの土坑1基のみであることから、今回の調査で掘り込み・記録作成を行った。このことから、工区内調査範囲で保存を必要とする範囲はなく、SM-B⑮の調査はすべて終了した。

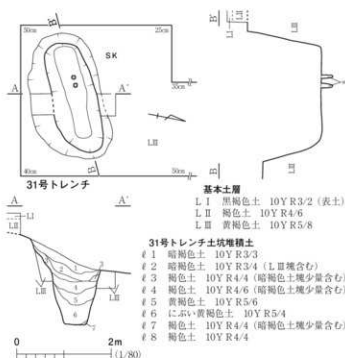


図18 SM-B⑮検出遺構

### 13. SM-B⑯ [姥ヶ岩遺跡]

**所在地** 相馬市東玉野字姥ヶ岩・須場  
**調査対象面積** 11,100㎡ **トレンチ数** 22本  
**保存面積** 1,000㎡  
**調査期間** 平成25年7月1日～7月17日  
**検出遺構** 木炭窯跡  
**出土遺物** 石器

**【概要】** SM-B⑯は、平成15年度に実施した表面調査において、SM-B④として新たに追加された遺跡推定地である(『福島県内遺跡分布調査報告9』)。その後、平成24年度にSM-B⑯と改称された(『福島県内遺跡分布調査報告20』)。丘陵西向き緩斜面に立地し、現況は山林である。平成25年度の試掘調査は、工区内の11,100㎡を対象にトレンチ22本を設定して行った。

**【遺構・遺物】** 遺構は、15 Tから木炭窯跡1基を確認した。遺構の検出面は、基盤層とした黄褐色土層(Ⅱ層)上面である。木炭窯跡は、完全に埋没しているため、地表面からは観察できない。しかし、15 Tより東側の斜面上位の地表面には、炭化物が散乱するため、15 Tの周囲にも他の木炭窯跡が埋没している可能性がある。遺物は、22 Tから石器が1点出土したが、表土中からの出土で、他所からの混入と考えられる。なお、これ以外のトレンチでは、遺構・遺物は確認されなかった。

**【まとめ】** 試掘調査の結果、木炭窯跡を確認した15 T周辺の1,000㎡については保存の必要がある。こ



4 15号トレンチ木炭窯跡検出状況(西から)

表9 SM-B⑯トレンチ一覧

トレンチ番号	検出遺構			出土遺物
	種類(時代)	確認面までの深さ	遺構内掘り込み	
15T	木炭窯跡	15cm	×	石器
22T				

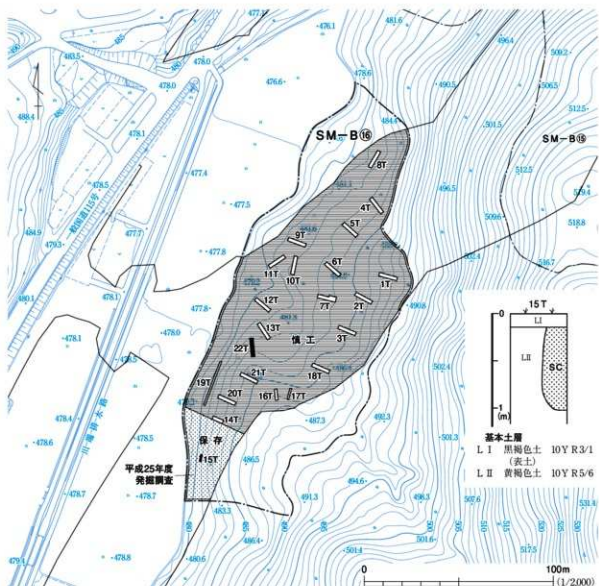


図19 SM-B⑩トレンチ配置図・土層柱状図

れ以外は保存対象外とするが、工事などの実施にあたっては慎重に行う必要がある。本遺跡推定地は、姥ヶ岩遺跡として登録する。なお、確定した保存面積1,000㎡は、すべて平成25年度に本発掘調査を実施した。

#### 14. SM-B⑪

所在地 相馬市東玉野字須場

調査期間 平成25年7月31日～8月9日

調査対象面積 6,500㎡ トレンチ数 11本

検出遺構 なし

保存面積 0㎡

出土遺物 縄文土器

**【概要】** SM-B⑪は、平成24年度の表面調査において、土師器の破片が採取されたことから新たに追加された遺跡推定地である（『福島県内遺跡分布調査報告20』）。丘陵～丘陵裾部に立地し、調査区中央部は丘陵を南北に分断する谷地形となっている。現況は山林である。平成25年度の試掘調査は、工区内の6,500㎡を対象に、トレンチ11本を設定して行った。

**【まとめ】** 試掘調査の結果、各トレンチから遺構は確認されなかった。遺物は、2Tから縄文土器片が

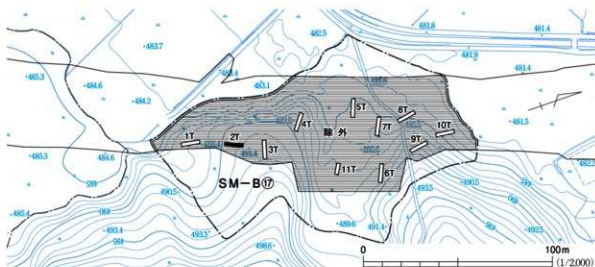


図20 SM-B(17)トレンチ配置図

1点出土したが、表土中からの出土で、他所からの混入と考えられる。このことから、今回の工区内調査範囲については、遺跡として扱わない。

### 15. SM-B(19) [向山遺跡]

**所在地** 相馬市東玉野字向山・町裏  
**調査対象面積** 20,500㎡ トレンチ数 44本  
**保存面積** 5,300㎡  
**調査期間** 平成25年10月7日～11月12日  
**検出遺構** 土坑  
**出土遺物** 縄文土器

**概要** SM-B(19)は、平成24年度の表面調査において、鉄滓が採取されたことから新たに追加された遺跡推定地である（『福島県内遺跡分布調査報告20』）。丘陵～丘陵裾部に立地し、現況は山林・畑である。平成25年度の試掘調査は、工区内の20,500㎡を対象に、トレンチ44本を設定して行った。

**遺構・遺物** 1～10 Tを設定した調査区東部は、畑の造成による開削を受けているが、4・5・8・10 Tから土坑を各1基ずつ確認した。各遺構の検出面は、基盤層とした黄褐色土層(Ⅲ層)上面である。このうち、一部掘り込みを行った5 Tの土坑は、規模や形状から縄文時代の落し穴と考えられる。また、8・10 Tの土坑も平面形から縄文時代の落し穴の可能性がある。遺物は、5 Tの土坑から縄文土器片1点が出土したが、細片のため詳細な時期は不明である。一方、調査区中央部～西部の丘陵部(11～44 T)は、製鉄関連遺跡の存在が推測されたが、遺構・遺物は確認されなかった。

**まとめ** 試掘調査の結果、開削著しい2 Tを除いた調査区東部の2,400㎡については、保存の必要がある。また、この保存箇所と地形が連続する調査区東端部の未試掘①(2,900㎡)も、遺構・遺物が埋没して



5 調査区東部全景(南から)

表10 SM-B(19)トレンチ一覧

トレンチ 番号	検出遺構		出土遺物
	種別 (時代)	確認面までの深さ 掘り込み	
4 T	土坑	70cm	○
5 T	土坑(縄文)	70cm	○ 縄文土器
8 T	土坑	60cm	×
10 T	土坑	80cm	×



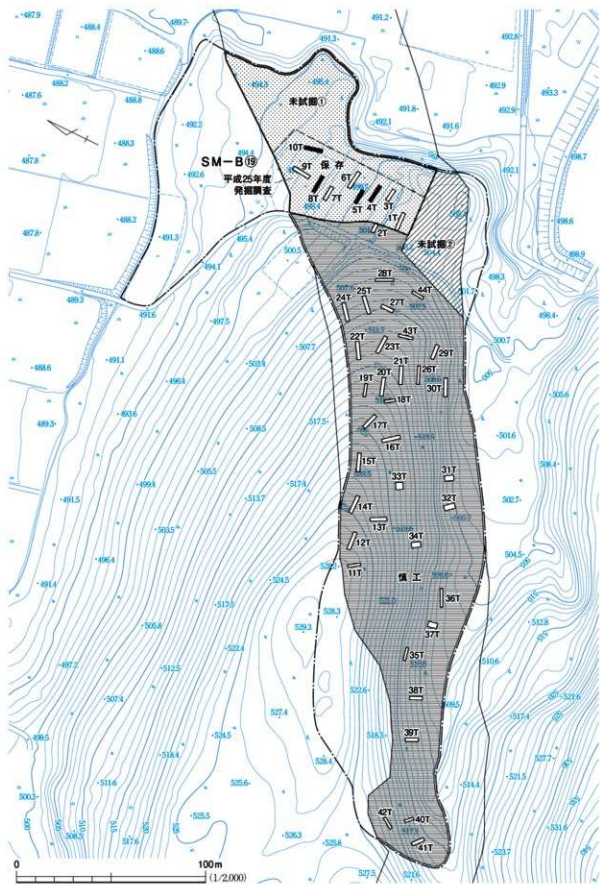


図21 SM-B19トレンチ配置図

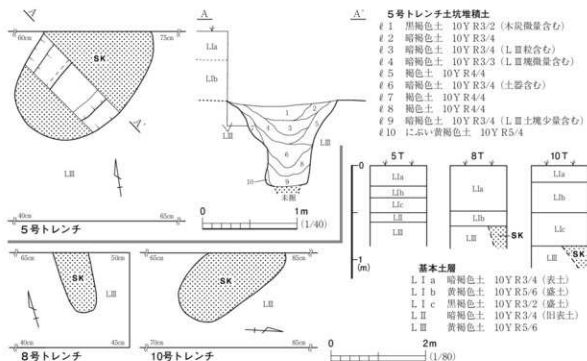


図22 SM-B⑨検出遺構・土層柱状図

いる可能性が高いため、保存範囲とした。以上のことから、SM-B⑨の保存面積は、合計5,300㎡である。

本遺跡推定地は向山遺跡として登録する。これ以外は保存対象外とするが、工事などの実施にあたっては慎重に行う必要がある。なお、確定した保存面積5,300㎡のうち、調査区東部の2,400㎡を対象として平成25年度に本発掘調査を実施した。調査区南東部の未試掘②(1,600㎡)は、試掘調査の必要がある。

## (2) 伊達市の遺跡

### 1. DT-B14 [川向遺跡] (第2次調査)

**所在地** 伊達市霊山町石田字川向・庚申向  
**調査期間** 平成25年10月23日～11月15日  
**調査対象面積** 6,750㎡ トレンチ数 18本  
**保存面積** 1,900㎡  
**検出遺構** 遺物包含層  
**出土遺物** 縄文土器

**概要** DT-B14は、平成21年度の表面調査でDT-B14・15として確認され、平成24年度にこの2つを統合した遺跡推定地である(『福島県内遺跡分布調査報告17・20』)。平成24年度の第1次試掘調査では、縄文時代前期の土器が確認された500㎡を保存範囲とし、川向遺跡として登録した(『福島県内遺跡分布調査報告20』)。石田川左岸の段丘面～丘陵裾部に立地し、東にはDT-B16が隣接する。現況は山林である。



6 作業風景(南東から)

表11 DT-B14 (川向遺跡) トレンチ一覧

トレンチ番号	検出遺構			出土遺物
	種類(時代)	確認面での深さ	遺構内での深さ	
14T	遺物包含層(縄文)	30cm	×	縄文土器

【遺構・遺物】14Tでは、縄文時代後・晩期の土器が出土する遺物包含層を確認した。遺物包含層は、Ⅱ層とした黒褐色土層で、30cm前後の厚さで堆積する。他のトレンチでは、遺構・遺物は確認できなかった。

【ま と め】試掘調査の結果、縄文時代後・晩期の遺物包含層を確認した14T周辺の300mについては保存の必要がある。また、第1次試掘調査保存箇所と地形が連続する未試掘部1600㎡も、遺構・遺物が埋没している可能性が高いため、保存範囲とした。これ以外は保存対象外とするが、工事などの実施にあたっては慎重に行う必要がある。なお、第1次試掘調査で未確定とした350㎡については、工事の掘削が及ばないことから、保存対象外とした。以上から、DT-B14(川向遺跡)の保存面積は、合計1,900㎡である。なお、確定した保存面積は、すべて平成25年度に本発掘調査を実施した。

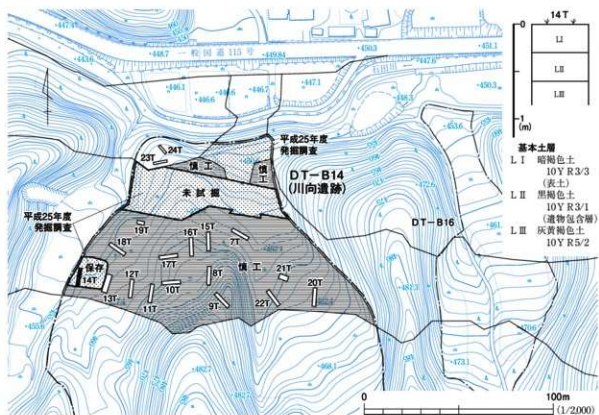


図23 DT-B14(川向遺跡)トレンチ配置図・土層柱状図

## 2. 渋谷館跡

所在地 伊達市月館町御代田字渋谷

調査対象面積 5,200㎡ トレンチ数 16本 保存面積 0㎡

調査期間 平成25年8月26日～9月2日, 10月1日～4日, 12月16日～20日

検出遺構 なし 出土遺物 なし

【概要】渋谷館跡は、周知の遺跡で、広瀬川左岸の丘陵上に立地する。また、周囲の丘陵上には、樹枝状に開析された沢を挟んで、西側に前柳館跡、南側に殿城館跡が位置する。現況は果樹園・山林である。平成25年度の試掘調査は、工区内の5,200㎡を対象に、トレンチ16本を設定して行った。

【ま と め】試掘調査の結果、1～4T周辺は、果樹園造成時に丘陵部を大規模に開削し、その土を沢部に埋め立てて平坦地としていることを確認した。5～16Tでは、ほとんどのトレンチが現表土直下で基盤



層が露出し、明確な旧表土は確認されなかった。また、各トレンチから遺構・遺物は確認されなかった。よって、今回の工区内調査範囲は、保存の必要はないが、工事などの実施にあたっては慎重に行う必要がある。

### 3. 前柳館跡

所在地	伊達市月館町御代田字猪作	調査期間	平成25年9月2日～6日
調査対象面積	1,800㎡	トレンチ数	6本
保存面積	0㎡	検出遺構	なし
		出土遺物	なし

**【概要】** 前柳館跡は、周知の遺跡で、広瀬川左岸の丘陵上に立地する。また、周囲の丘陵上には、樹枝状に開析された沢を挟んで、東側に渋谷館跡、南側に殿城館跡が位置する。前柳館跡の立地は、殿城館跡を眼下に見下ろせる場所に立地するという特徴がある。平成25年度の試掘調査は、工区内の1,800㎡を対象に、トレンチ6本を設定して行った。試掘調査箇所は、遺跡の北部で、現況は畑・荒地である。

**【まとめ】** 試掘調査の結果、調査区の全域が土地造成による開削と盛土がされており、旧地形がほとんど失われていることを確認した。3・4Tでは、現表土直下で基盤層のふい黄橙色岩盤層(Ⅱ層)が確認されるが、これ以外のトレンチでは盛土が厚く堆積していた。また、各トレンチから遺構・遺物は確認されなかった。このことから、今回の工区内調査範囲については、保存の必要はないが、工事などの実施にあたっては慎重に行う必要がある。なお、本遺跡推定地の未試掘範囲は、調査区北端部の300㎡である。

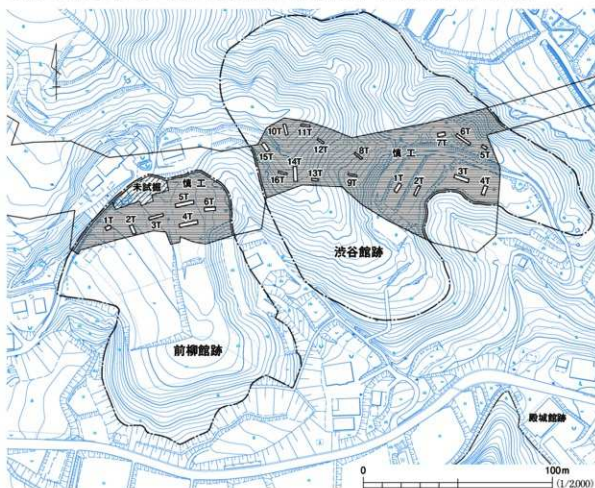


図24 渋谷館跡・前柳館跡トレンチ配置図

## 第3節 地域高規格道路(会津縦貫北道路)建設予定地

会津縦貫北道路は、会津北部地域の高速交通体制を形成し、地域の産業・経済・観光資源などを有機的に結び付けることで、会津地域の活性化を図ることを目的とした事業である。平成8年度に都市計画道路に位置付けられ、平成9年度から建設省（現国土交通省）の直轄事業として進められている。喜多方市関柴町から河沼郡湯川村を経て、会津若松市高野に至る総延長13.1kmの地域高規格道路である。

平成25年度の試掘調査は、会津若松市の3箇所を対象に実施した。

表12 会津若松市所在遺跡試掘調査成果一覧

No	遺跡名	遺跡工区内面積	平成25年度調査		未試掘面積	平成25年度検出遺構・出土遺物	
			調査対象面積	保存面積		検出遺構	出土遺物
1	AW-B2 (鶴沼B・C)	13,700㎡	3,600㎡	3,300㎡	300㎡	溝跡、小穴	土師器、須恵器、磁器
2	AW-B4	9,600㎡	7,500㎡	0㎡	0㎡		
3	AW-B5 (西原才)	11,600㎡	2,700㎡	3,100㎡	3,100㎡		須恵器、陶器
会津若松市 計		34,900㎡	13,800㎡	6,400㎡	3,400㎡		



図25 会津若松市の遺跡

## 1. AW-B2〔鶴沼B・C遺跡〕(第2次調査)

所在地 会津若松市高野町中沼字鶴沼

高野町木流字橋本

調査期間 平成25年4月16日～4月24日

調査対象面積 3,600㎡ トレンチ数 24本

保存面積 3,300㎡

検出遺構 溝跡、小穴

出土遺物 土師器、須恵器、磁器

〔概要〕 AW-B2は、周知の遺跡が多く所在する河川左岸の微高地に位置し、遺構等が遺存してい



7 41号トレンチ溝跡検出状況(東から)

る可能性が高いと判断されたことから、平成19年度の表面調査において新たに追加された遺跡推定地である(『福島県内遺跡分布調査報告14』)。工区内面積は13,700㎡である。南西に鶴沼A遺跡、北西に鶴沼B遺跡、東にAW-B4が隣接する。現況は水田で、調査区西部には第2沼川が北流している。

平成24年度の第1次試掘調査では、古代の遺構・遺物が確認された9,800㎡を保存範囲とし、第2沼川を境に西側を鶴沼B遺跡に含め、東側を鶴沼C遺跡として登録した(『福島県内遺跡分布調査報告20』)。平成25年度の第2次試掘調査は、調査区東端部3,600㎡を対象に、トレンチ24本を設定して行った。

〔遺構・遺物〕 遺構は、35～39・41～43・45・46 Tから溝跡が、47 Tから小穴が確認された。各遺構の検出面は、基盤層とした黄褐色粘質土層(Ⅱ層)上面で、現地表面から遺構検出面までの深さは、20～30cmで

表13 AW-B2(鶴沼B・C遺跡)トレンチ一覧

トレンチ番号	検出遺構			出土遺物	トレンチ番号	検出遺構			出土遺物
	種類(時代)	確認までの深さ	遺構内での深さ			種類(時代)	確認までの深さ	遺構内での深さ	
25 T				土師器	38 T	溝跡	30cm	×	
26 T				磁器	39 T	溝跡	25cm	×	
28 T				土師器、須恵器	41 T	溝跡	30cm	×	
30 T				土師器	42 T	溝跡	20cm	×	
31 T				須恵器	43 T	溝跡	20cm	×	土師器、須恵器
34 T				土師器、須恵器	45 T	溝跡	20cm	×	土師器
35 T	溝跡	30cm	×		46 T	溝跡	20cm	×	
36 T	溝跡	30cm	×	須恵器	47 T	小穴	20cm	×	
37 T	溝跡	30cm	×						

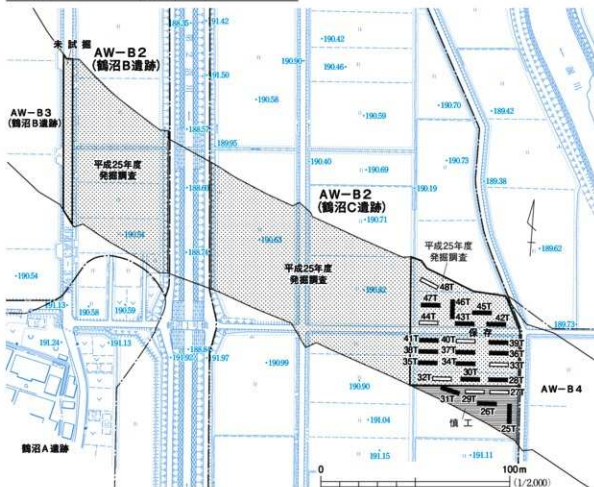


図26 AW-B2(鶴沼B・C遺跡)トレンチ配置図

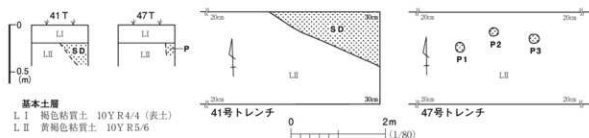


図27 AW-B2 (鶴沼B・C遺跡) 検出遺構・土層柱状図

ある。このうち、36・43・45 Tでは溝跡から古代の土師器・須恵器が出土している。

なお、31 T以南のトレンチでは、旧地形は周囲より低く沢状になっており、遺構は確認されなかった。遺物は、25・26・31 Tから各1・2点出土したが、いずれも水田造成土中からの出土である。

**【まとめ】** 試掘調査の結果、今回の調査範囲のうち、遺構・遺物を確認した北部～中央部の3,000㎡については保存の必要がある。保存範囲は、鶴沼C遺跡に含まれる。これ以外は保存の必要はないが、工事などの実施にあたっては慎重に行う必要がある。また、鶴沼B遺跡に含まれる調査区西端部の未試掘部(300㎡)は、周辺の試掘調査結果から遺構・遺物が埋没している可能性が高いため、保存範囲とした。

## 2. AW-B4 (第2次調査)

所在地 会津若松市高野町中沼字沼木

調査期間 平成25年4月11日～16日

調査対象面積 7,500㎡ トレンチ数 31本

検出遺構 なし

保存面積 0㎡

出土遺物 なし

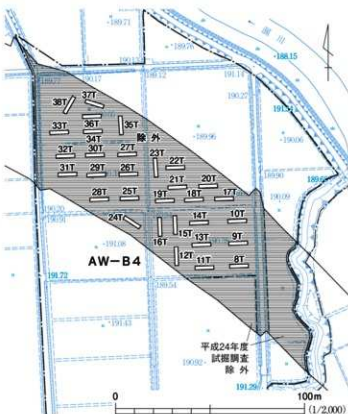


図28 AW-B4 トレンチ配置図

**【概要】** AW-B4は、平成24年度の表面調査において、須恵器・土師器の破片が採取されたことから新たに追加された遺跡推定地である(「福島県内遺跡分布調査報告20」)。工区内面積は9,600㎡である。沼川左岸に立地し、東端には沼川の支流が流れている。西にAW-B2が、東にAW-B5が隣接する。現況は水田・荒地である。

平成25年の試掘調査では、工区内の7,500㎡を対象に、トレンチ31本を設定して行った。

**【まとめ】** 試掘調査の結果、平成24年度の第1次試掘調査と同様、表土・水田造成の盛土下には湿地性のグライ化した黒色粘質土が堆積し、いずれのトレンチからも遺構・遺物は確認されなかった。

このことから、今回の工区内調査範囲については、遺跡として扱わない。

### 3. AW-B5 [西坂才遺跡] (第2次調査)

所在地 会津若松市高野町中沼字  
西坂才

調査期間 平成25年5月14日～17日

調査対象面積 2,700㎡

トレンチ数 7本

保存面積 3,100㎡

検出遺構 なし

出土遺物 須恵器、陶器

**【概要】** AW-B5は平成24年度の表面調査で、須恵器・土師器の破片を採取したことから、新たに追加された遺跡推定地である(『福島県内遺跡分布調査報告20』)。潤川とその支流に囲まれた微高地に立地し、西にAW-B4が隣接する。現況は水田・宅地・畑地である。

平成24年度の第1次試掘調査では、古代の遺構・遺物が確認された5,800㎡を保存範囲とし、西坂才遺跡として登録した(『福島県内遺跡分布調査報告20』)。平成25年度は、調査区南部の2,700㎡を対象に試掘調査を実施した。

**【まとめ】** 試掘調査の結果、各トレンチから遺構は確認できず、27・28Tから出土した須恵器・陶器片計4点は、すべて表土中からの出土である。よって、今回の調査範囲は、保存の必要はないが、工事などの実施にあたっては慎重に行う必要がある。なお、調査区北部の未試掘①(2,000㎡)・②(1,100㎡)は周辺トレンチの状況から遺構・遺物が埋没している可能性が高いため、保存範囲とした。以上から、第1・2次試掘調査の保存面積は合計8,900㎡である。このうち、未試掘②を除く7,800㎡について、平成25年度に本発掘調査を実施した。

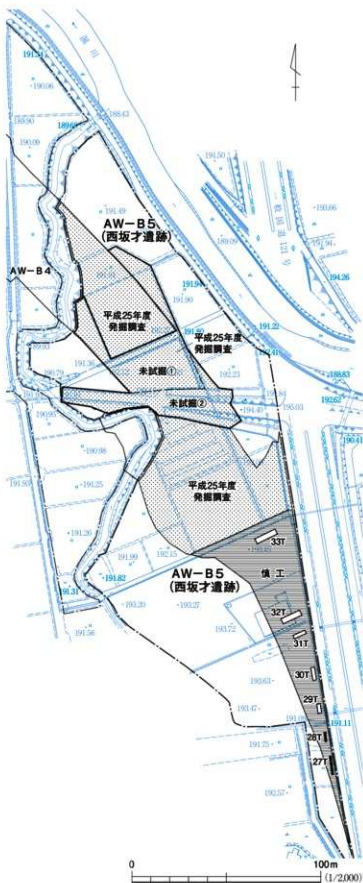


図29 AW-B5 (西坂才遺跡) トレンチ配置図



#### 第4節 復興交付金事業（市街地復興効果促進）新地町福田地区 土取場候補地

当事業は、復興地域全域で盛土材の不足が課題となったことから、福島県が事業主体となり、新規に土取場を開発する目的で進められている。当事業の新地町福田地区に関する埋蔵文化財調査は、福島県教育委員会が平成25年10月に表面調査を行い、4箇所の遺跡推定地（ST-FD、B1～B4）を確認した。福島県教育委員会は、翌11月から同地区の試掘調査を開始したが、並行して試掘調査の一部を財団法人福島県文化振興財団に委託した。委託した調査面積は、ST-FD、B1（10,000㎡）とST-FD、B2（8,000㎡）の計18,000㎡である。以下の報告は、同財団に委託して行った試掘調査の結果である。

表14 新地町所在遺跡試掘調査成果一覧

No	遺跡名	遺跡推定地 面積	平成25年度調査		未試掘面積	平成25年度検出遺構・出土遺物	
			調査対象面積	保存面積		検出遺構	出土遺物
1	ST-FD、B1	10,000㎡	10,000㎡	7,200㎡	0㎡	製鉄炉跡、木炭窯跡、土坑	羽口、鉄滓
2	ST-FD、B2	19,000㎡	8,000㎡	5,700㎡	0㎡	堅穴住居跡、土坑、堅穴状 遺構、小穴	
新地町 計		119,000㎡	18,000㎡	12,900㎡	0㎡		



図30 新地町の遺跡

##### 1. ST-FD、B1 [北原製鉄遺跡]

所在地 新地町福田字北原

調査期間 平成25年11月25日～12月12日

調査対象面積 10,000㎡ トレンチ数 23本

保存面積 7,200㎡

検出遺構 製鉄炉跡、木炭窯跡、土坑

出土遺物 羽口、鉄滓

【概要】 ST-FD、B1は、平成25年

10月に福島県教育委員会が実施した表面調査によって鉄滓が採取され、製鉄関連遺跡の存在が推測された箇所である。ST-FD、B1は、周知の遺跡である北原製鉄遺跡の西側に隣接する丘陵部に立地している。

調査区の地形は、丘陵根尾～丘陵南向き斜面である。南西側には、ST-FD、B2が隣接する。



8 調査区中央部全景（南西から）



図31 ST-FD. B1・ST-FD. B2トレンチ配置図

平成25年度の試掘調査は、10,000㎡を対象に23本のトレンチ(101～123T)を設定した。

なお、トレンチ番号のうち、1～100Tまでの番号は、福島県教育委員会が実施した調査において使用した。

**【遺構・遺物】** 遺構・遺物が確認されたのは、102・107・109・117・120Tである。109Tでは、製鉄炉跡の作業場を確認した。作業場に堆積した土は炭化物を多く含み、鉄滓が出土した。109T北側の斜面上位には、等高線に沿うように現地表面から認められる楕円形状のくぼみがあり、踏みフィゴ部と推測される。なお、踏みフィゴ部～作業場にかけての地形は、急傾斜で比高差があることから、製鉄炉跡は古代の竖形炉の可能性があるので、102・117Tでは、木炭窯跡の作業場を確認した。このうち、117T北側の斜面上位は、等高線に直交して細長く現地表面がくぼんでおり、焼成室と推測される。また、117Tでは、羽口・鉄滓が出土したことから、トレンチ周囲に製鉄炉跡が埋没していると考えられる。なお、117Tの西側には現地表面がくぼんでいる箇所が複数確認され、竈穴住居跡や製鉄炉跡などの製鉄関連遺構が存在する可能性がある。同様のくぼみは、109Tの南西部にも認められる。

107・120Tでは、褐色土層(Ⅲ層)上面から土坑を検出した。現地表面から遺構検出面までの深さは、約10cmである。なお、調査区東端部の110～116T、及び調査区南西部の118・119・121～123Tからは、遺構・遺物は確認されなかった。

**【まとめ】** 試掘調査の結果、調査区内において製鉄関連遺構が確認され、製鉄遺跡であることが確認された。保存が必要な範囲は、遺構・遺物が確認された調査区中央部を中心とした南向き斜面の7,200㎡である。これ以外は保存対象外とするが、工事などの実施にあたっては慎重に行う必要がある。本遺跡推定地は、東側に隣接する北原製鉄遺跡に含めて登録する。

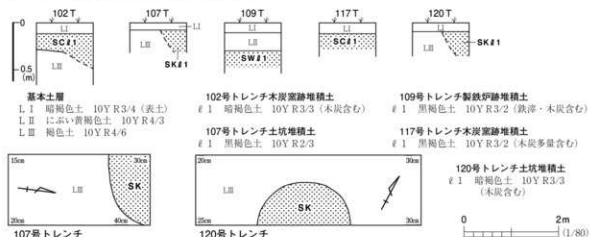


図32 ST-FD, B1 検出遺構・土層柱状図



9 120号トレンチ全景(南西から)

表15 ST-FD, B1トレンチ一覧

トレンチ番号	検出遺構		出土遺物
	種類(時代)	確認面までの深さ	
102T	木炭窯跡	15cm	鉄滓 羽口、鉄滓
107T	土坑	10cm	
109T	製鉄炉跡	10cm	
117T	木炭窯跡	20cm	
120T	土坑	10cm	



## 2. ST-FD. B2 [小鯨遺跡]

**所在地** 新地町福田字小鯨・鉄炮町  
**調査期間** 平成25年12月3日～12月13日  
**調査対象面積** 8,000㎡ トレンチ数 28本  
**保存面積** 5,700㎡  
**検出遺構** 竪穴住居跡、土坑、竪穴状遺構、小穴  
**出土遺物** なし

**概要** ST-FD. B2は、平成25年10月に福島県教育委員会が実施した表面調査で、新たに遺跡推定地とした箇所である。調査区の地形は、北西方向に延びる丘陵尾根である。北東側には、ST-FD. B1が隣接する。

平成25年度の試掘調査は、8,000㎡を対象に28本のトレンチ(1～28T)を設定した。

**遺構・遺物** 遺構は、3Tから土坑1基、7Tから小穴1基、14Tから竪穴状遺構1基、18Tから竪穴住居跡1軒を確認した。各遺構の検出面は、基盤層とした黄褐色土層(Ⅲ層)上面で、現地表面から遺構検出面までの深さは、10～25cmである。

3Tの土坑は、長軸約210cm、短軸約110cmで、平面形は楕円形である。規模や形状から、縄文時代の落し穴の可能性も考えられる。18Tで確認した竪穴住居跡は、現地表面でくぼんでいる状況で確認された。平面形は方形だが、北東部は斜面側にやや傾斜するため流失している。出土遺物がないたため、詳細な時期は不明だが、周辺の遺跡の状況から、古代の可能性もある。なお、18Tの周囲には、現地表面が18Tと同様にくぼんでいる箇所が複数確認され、竪穴住居跡などの遺構が埋没している可能性がある。

調査区北端部の緩斜面に設定した26～28T、及び調査区南西部の沢部に設定した19～25Tからは、遺構・遺物は確認されなかった。

**まとめ** 試掘調査の結果、遺構が確認された丘陵尾根を中心とした5,700㎡は保存の必要がある。これ以外は保存対象外とするが、工事などの実施にあたっては慎重に行う必要がある。本遺跡推定地は、小鯨遺跡として登録する。



10 3号トレンチ土坑検出状況(北西から)

表16 ST-FD. B2トレンチ一覧

トレンチ番号	検出遺構			出土遺物
	種類(時代)	確認面までの深さ	遺構内掘込み	
3T	土坑	15cm	×	
7T	小穴	20cm	×	
14T	竪穴状遺構	25cm	○	
18T	竪穴住居跡	20cm	×	

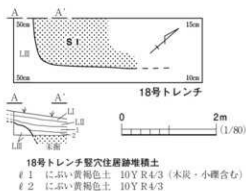
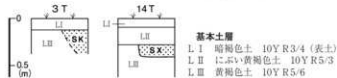
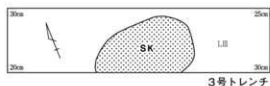


図33 ST-FD. B2検出遺構・土層柱状図

### 第3章 表面調査

#### 第1節 一般国道115号相馬福島道路建設予定地

一般国道115号相馬福島道路は、福島県相馬市を起点とし、伊達市を經由して伊達郡桑折町で東北自動車道へとアクセスする。将来的な計画では山形県米沢市・山形市を經由して秋田県横手市に至る東北中央自動車道の一部を成す高規格道路としての位置づけがなされている。

今回表面調査を実施したのは、一般国道115号相馬福島道路のうち、雲山道路の雲山I C付近及び雲山I Cと福島北J C Tに挟まれた区間の、伊達市雲山町下小国地区から伊達郡桑折町松原地区にかけての約12km、610haである。平成25年3月に実施した結果、表17に示した周知の遺跡5箇所と新たに発見した1箇所、及び22箇所の遺跡推定地を確認した。なお、雲山I C付近の表面調査は、平成18年度に実施している（『福島県内遺跡分布調査報告14』）が、工区の変更が生じたため、再度実施した。

周知の遺跡5箇所のうち、中室内遺跡・宮本遺跡・荒屋敷遺跡の3箇所については、遺跡範囲の周囲からも遺物が採取されたため、遺跡範囲の拡張が必要であることを確認した。遺跡推定地のうち、DT-B 29～33は、これらの周知の遺跡に隣接し、特にDT-B 29・30・32では遺物が採取されている。

新発見の遺跡は、伊達市雲山町下小国地区の上ノ台館跡で、丘陵尾根部を切断する堀切と平場を確認した。

表17 相馬福島道路（雲山道路・雲山I C～福島北J C T間）関連遺跡一覧

No.	遺跡名	遺跡番号	所在地	現況	時代	採取遺物	工区内面積	備考
1	山岸	213300643	伊達市雲山町下小国字山岸	畑地・宅地	縄文～平安	縄文土器・土師器・須恵器	2,000㎡	周知の遺跡（平成18年度表面調査）
2	上ノ台館跡	213300654	雲山町下小国字上ノ台	山林			23,300㎡	新発見の遺跡
3	中室内	213300329	保原町上保原字中室内	畑地・宅地	弥生・古墳・奈良	弥生土器・土師器	13,700㎡	周知の遺跡→96,400㎡（中室内館跡含む）
4	宮本	213300030	伏黒字宮本	畑地・宅地	奈良・平安	縄文土器	18,000㎡	周知の遺跡→82,400㎡
5	荒屋敷	213300032	伏黒字荒屋敷・六角	畑地・宅地	古墳～中世	土師器・石器	9,300㎡	周知の遺跡→60,800㎡
6	DT-B 2		雲山町下小国字荒屋敷	畑地			1,400㎡	平成18年度表面調査
7	DT-B 3		雲山町下小国字福田	畑地			3,000㎡	平成18年度表面調査
8	DT-B 5		雲山町下小国字清水	畑地	近世		1,000㎡	平成18年度表面調査
9	DT-B 19		雲山町下小国字山田入	山林			3,700㎡	新発見の遺跡推定地
10	DT-B 20		雲山町下小国字山田入	畑地			6,700㎡	新発見の遺跡推定地
11	DT-B 21		雲山町下小国字御波	畑地・宅地・水田			18,800㎡	新発見の遺跡推定地
12	DT-B 22		雲山町下小国字荒屋敷	畑地・宅地・水田			18,200㎡	新発見の遺跡推定地
13	DT-B 23		雲山町下小国字力持	畑地・宅地			100㎡	新発見の遺跡推定地
14	DT-B 24		保原町所沢字安住内	畑地・山林			4,200㎡	新発見の遺跡推定地
15	DT-B 25		保原町富沢字松ノ作	山林	縄文	縄文土器	8,000㎡	新発見の遺跡推定地
16	DT-B 26		保原町富沢字櫛原入	山林			18,500㎡	新発見の遺跡推定地
17	DT-B 27		保原町大櫛字大土山	畑地			2,700㎡	新発見の遺跡推定地
18	DT-B 28		保原町上保原字岩塚坂	畑地			10,800㎡	新発見の遺跡推定地
19	DT-B 29		保原町上保原字田向	畑地・宅地	縄文	縄文土器	19,000㎡	新発見の遺跡推定地
20	DT-B 30		伏黒字沖ノ原	畑地・宅地	平安	土師器・石器	27,600㎡	新発見の遺跡推定地
21	DT-B 31		伏黒字宮本前	畑地・宅地			8,100㎡	新発見の遺跡推定地
22	DT-B 32		伏黒字館ノ内	畑地・宅地	縄文	縄文土器	7,900㎡	新発見の遺跡推定地
23	DT-B 33		伏黒字川原	畑地・宅地			8,800㎡	新発見の遺跡推定地
24	桑折台	30160028	桑折町字台	畑地・宅地	平安・近世	石器	200㎡	周知の遺跡
25	QR-B 1		松原字稲山	畑地・宅地			200㎡	新発見の遺跡推定地
26	QR-B 2		松原字郷松	畑地・宅地・水田	縄文	縄文土器・石器	15,400㎡	新発見の遺跡推定地
27	QR-B 3		松原字日照田	畑地・水田	平安	土師器	18,700㎡	新発見の遺跡推定地
28	QR-B 4		松原字館ノ前	畑地・宅地・水田	縄文・平安	縄文土器・土師器	18,800㎡	新発見の遺跡推定地
							工区内計	288,100㎡

※周知の遺跡（No.3～5）は、遺跡範囲の拡張を行った。備考欄の面積は、拡張後の遺跡範囲の面積。

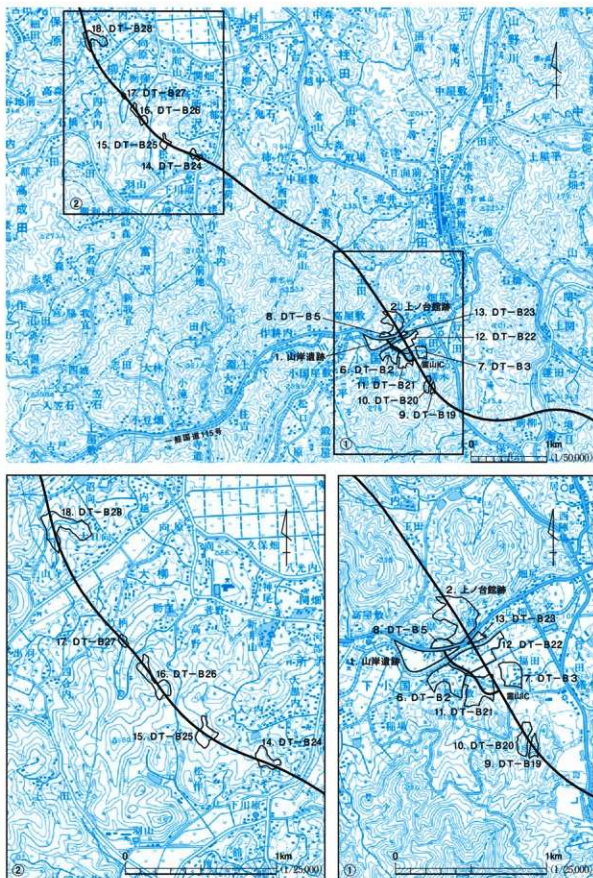


図34 相馬福島道路(雲山道路・雲山IC~福島北JCT間) 予定路線と遺跡・遺跡推定地(1)

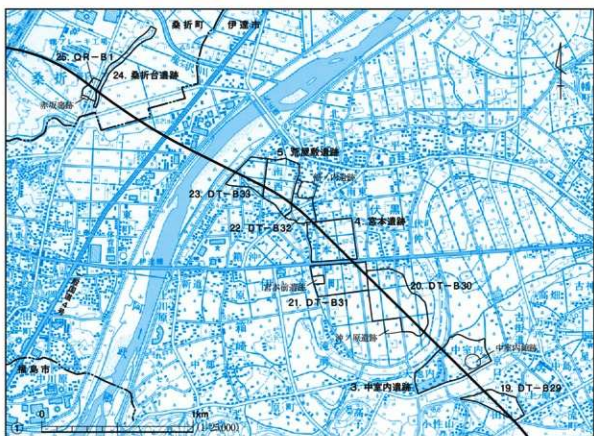


図35 相馬福島道路（雲山道路・雲山IC～福島北JCT周）予定路線と遺跡・遺跡推定地（2）

## 第2節 主要地方道いわき上三坂小野線(仮称)小名浜道路建設予定地

主要地方道いわき上三坂小野線(仮称)小名浜道路は、小名浜港と常磐自動車道を直結させることで、広域物流拠点の機能強化、周辺道路の渋滞改善、地域の観光・復興の支援を図ることを目的とした事業である。現在、福島県いわき建設事務所が事業を進めている。

今回表面調査を実施したのは、主要地方道いわき上三坂小野線(仮称)小名浜道路の全区間、いわき市泉町から同市山田町にかけての約8km、11haである。

平成26年2月に実施した表面調査の結果、表18に示した周知の遺跡3箇所及び13箇所の遺跡推定地を確認した。3箇所の周知の遺跡については、所在地・遺跡範囲を再確認した。

今回の表面調査で新たに確認した遺跡推定地は、1WK-B1～B13である。これらの遺跡推定地は、河岸段丘面、丘陵頂部の平坦面、沖積地などに立地し、集落跡が埋没している可能性がある。

なお、今回掲示した調査対象遺跡・遺跡推定地及び工区内面積については、今後の工事計画の変更などにより、変動する可能性がある。

表18 主要地方道いわき上三坂小野線(仮称)小名浜道路関連遺跡一覧

No.	遺跡名	遺跡番号	所在地	現況	時代	採取遺物	工区内面積	備考
1	泉大平	204400551	いわき市泉町字大平・一町田 辻野町長沢	畑地	縄文～平安		2,700㎡	周知の遺跡
2	江畑町堀ノ内 船跡	204401284	江畑町堀ノ内 辻野町泉田	山林	中世		8,900㎡	周知の遺跡
3	江畑船跡	204401285	江畑町堀ノ内	山林	中世		10,000㎡	周知の遺跡
4	1WK-B1		辻野町須巾平	畑地・宅地・山林			5,300㎡	新発見の遺跡推定地
5	1WK-B2		辻野町欠下	山林			600㎡	新発見の遺跡推定地
6	1WK-B3		辻野町古防	畑地・山林			1,000㎡	新発見の遺跡推定地
7	1WK-B4		辻野町古防	荒地・山林			1,500㎡	新発見の遺跡推定地
8	1WK-B5		辻野町古防	山林			2,000㎡	新発見の遺跡推定地
9	1WK-B6		辻野町大町	山林			1,100㎡	新発見の遺跡推定地
10	1WK-B7		辻野町大町	山林			-㎡	新発見の遺跡推定地
11	1WK-B8		辻野町大町 石塚町餅田	畑地・宅地・荒地			-㎡	新発見の遺跡推定地
12	1WK-B9		高倉町田ノ作	山林・畑地			-㎡	新発見の遺跡推定地
13	1WK-B10		高倉町田ノ作・礼場	山林			1,400㎡	新発見の遺跡推定地
14	1WK-B11		山田町窪根・巻丁田	山林			400㎡	新発見の遺跡推定地
15	1WK-B12		山田町片岸	畑地・宅地・荒地			-㎡	新発見の遺跡推定地
16	1WK-B13		山田町砂方	畑地・宅地・荒地			7,900㎡	新発見の遺跡推定地
工区内計							42,800㎡	



11 1WK-B1全景(南東から)



12 1WK-B13全景(南から)



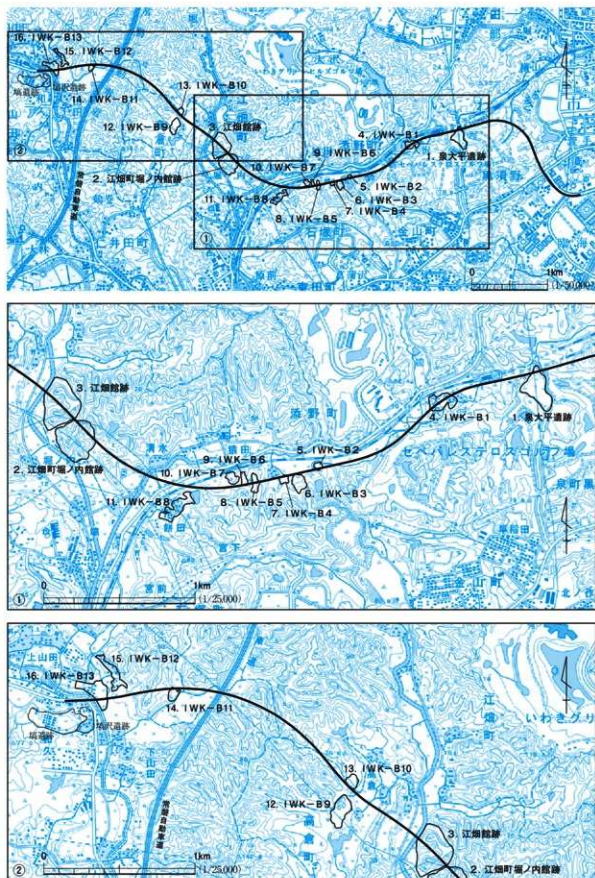


図36 主要地方道いわき上三坂小野線(仮称)小名浜道路予定路線と遺跡・遺跡推定地

## 第4章 総 括

平成25年度の福島県内遺跡分布調査は、試掘調査4事業（4市町）、及び表面調査1事業（1市）を平成25年4月中旬から平成26年2月中旬までの期間で実施した。調査の結果、試掘調査では8箇所が要保存対象として確定した。表面調査では3箇所の周知の遺跡の範囲を再確認し、13箇所の遺跡推定地を新たに確認した。なお、平成25年度の試掘調査で保存範囲が確定した一般国道115号相馬福島道路関連のSM-B⑤（東羽黒平遺跡）の一部、SM-B⑩（姥ヶ岩遺跡）、SM-B⑨（向山遺跡）の一部、DT-B14（川向遺跡）、会津縦貫北道路関連のAW-B2（鶴沼B・C遺跡）、AW-B5（西坂才遺跡）の一部については試掘調査終了後、本発掘調査を実施している。

以下、各事業の平成25年度の試掘調査成果を本章表19～24にまとめたが、各表・本文中で掲示している調査対象面積、保存面積、未試掘面積などは、今後の工事計画変更などにより、変動する可能性がある。

### 1. 常磐自動車道建設予定地

常磐自動車道関連の試掘調査は、浜通り地方南端のいわき市から開始され、平成24年度には相馬市まで終了した。平成25年度の試掘調査は、新地町内の遺跡1箇所を対象に実施した。

**【新地町】** 新地町内において、試掘調査が必要な箇所は27箇所の遺跡及び遺跡推定地で、このうち平成24年度までに24箇所について試掘調査が終了している。

平成25年度の試掘調査は、鴻ノ巣遺跡1箇所について実施した。鴻ノ巣遺跡は、平成19年度に4,000㎡を対象に実施され、そのうち3,000㎡が保存対象となり、平成21年度に本発掘調査が実施されている。平成25年度は、工事計画の変更により新たに工区となった50㎡を対象に試掘調査を実施した。調査の結果、新たに追加された保存面積はない。

なお、未試掘範囲が残っているのは、南浪沢A遺跡、ST-B⑪（南浪沢A遺跡）の2箇所である。しかし、この2箇所の未試掘範囲は、平成25年度に本発掘調査を実施した箇所と地形が連続することから、遺構・遺物が埋没している可能性が高いため、保存範囲とした。このため、平成25年度で新地町の遺跡及び遺跡推定地27箇所すべての試掘調査を終了した。

以上から、常磐自動車道関連の試掘調査は、平成25年度ですべて終了した。

表19 常磐自動車道関連試掘調査対象遺跡成果一覧（新地町）

№	遺跡名	試掘調査		試掘対象面積	年度別試掘対象面積		未試掘面積	保存面積	備 考	
		終	未		年度	面積				報告書
1	鴻ノ巣	○		4050㎡	H19	4,000㎡	【昭内分14】	0㎡	3,000㎡	H21(3,000㎡) 発掘実施。 【常磐自動車道遺跡調査報告書66】
					H25	50㎡				
2	南浪沢A	○		6,700㎡	H24	5,100㎡	【昭内分20】	1,600㎡	4,900㎡	南浪沢A遺跡のH24保存面積4,900㎡には、ST-B⑨の保存面積500㎡を含む。）
					H25	-				
3	ST-B⑪ (南浪沢A)	○		2,300㎡	H24	1,400㎡	【昭内分20】	900㎡	1,400㎡	H24(3,200㎡) 発掘実施。 H25(3,100㎡) 発掘実施。 未試掘2,500㎡を含め終了。
					H25	-				
合 計		3	0	13,050㎡	終了	10,550㎡		2,500㎡	11,800㎡	保存11,800㎡のうち、 <b>2,500㎡未発掘。</b>
					H25	50㎡			2,500㎡	

【用例】【昭内分●】→【福島県内遺跡分布調査報告書】・（●頁）→本報告書掲載ページ、終→終了、調→調査継続中、未→未着手、以下、共通。

## 2. 一般国道115号相馬福島道路建設予定地

一般国道115号相馬福島道路の表面調査は、平成14年度に阿武隈東道路、平成18・21年度に霊山道路、平成23年度に相馬西道路、平成24年度に阿武隈東IC～阿武隈IC間及び霊山IC～福島北JCT間をそれぞれ実施した。このうち、阿武隈東道路は平成21年度には本発掘調査まで終了した。他の区間に関しては、平成24年度より阿武隈東IC～阿武隈IC間及び霊山道路の試掘調査を開始し、霊山道路の3箇所の変跡及び1箇所の遺跡推定地について終了している。

平成25年度の試掘調査は、相馬市内の15箇所、伊達市内の3箇所の計18箇所の遺跡及び遺跡推定地を対象に実施した。

**【相馬市】** 相馬西道路の試掘調査は、今年度より開始し、10箇所の遺跡推定地を対象に実施した。このうち、保存面積が確定したのは、SM-B⑤の4,800㎡で、東羽黒平遺跡として登録することとなった。SM-B③、SM-B④、SM-B⑩、SM-B⑪、SM-B⑬、SM-B⑭の6箇所は、平成25年度で試掘調査が終了した。調査が継続する遺跡推定地は、SM-B①、SM-B②、SM-B⑤、SM-B⑨の4箇所、試掘調査が必要な未試掘範囲の面積は、合計18,250㎡である。

相馬市分の阿武隈東IC～阿武隈IC間の試掘調査は、今年度より開始し、5箇所の遺跡推定地を対象に試掘調査を実施した。このうち、保存面積が確定した遺跡推定地は、SM-B⑯(1,000㎡)、SM-B⑱(5,300㎡)の2箇所、保存面積の合計は、6,300㎡となる。SM-B⑯は姥ヶ岩遺跡、SM-B⑱は向山遺跡として登録する。なお、SM-B⑫、SM-B⑭、SM-B⑰、SM-B⑲の4箇所は、平成25年度で試掘調査が終了した。

平成26年度以降、試掘調査対象となる調査継続・未着手の遺跡推定地は、SM-B⑳、SM-B㉑の2箇所である。この2箇所の遺跡推定地について、試掘調査が必要な未試掘範囲の面積は12,900㎡である。

**【伊達市】** 伊達市分の阿武隈東IC～阿武隈IC間の試掘調査は、平成24年度からDT-B14(川向遺跡)の1箇所について実施している。平成25年度も、引き続きDT-B14(川向遺跡)の試掘調査を実施した。その結果、1,900㎡を保存範囲とした。なお、DT-B14(川向遺跡)は、平成25年度で試掘調査が終了した。一方、DT-B16、DT-B17、DT-B18の3箇所の遺跡推定地の試掘調査は未着手であり、未試掘面積の合計は12,500㎡である。

霊山道路の試掘調査は、平成24年度から実施し、3箇所の遺跡及び1箇所の遺跡推定地で試掘調査が終了している(「福島県内遺跡分布調査報告20」)。平成25年度の試掘調査は、渋谷館跡、前柳館跡の2箇所の遺跡について実施した。その結果、遺構・遺物は確認されず、保存対象外となった。なお、渋谷館跡は、平成25年度で試掘調査が終了したが、前柳館跡は調査区北部の300㎡が未試掘で調査が継続となる。この他、山岸遺跡、DT-B2、DT-B3、DT-B5、DT-B19、DT-B20、DT-B21、DT-B22の8箇所の遺跡及び遺跡推定地の試掘調査は未着手で、その面積は合計54,800㎡である。したがって、霊山道路の未試掘面積は、合計55,100㎡である。

一般国道115号相馬福島道路の平成26年度以降の試掘調査は、相馬西道路の4箇所の遺跡推定地、阿武隈東IC～阿武隈IC間の5箇所の遺跡推定地、霊山道路の2箇所の遺跡及び7箇所の遺跡推定地、霊山IC～福島北JCT間の5箇所の遺跡及び15箇所の遺跡推定地、4区間の合計38箇所を対象に実施する。なお、試掘対象箇所と面積は、今後の工事計画などにより変更される場合がある。



表20 相馬福島道路（相馬西道路）関連試掘調査対象遺跡成果一覧（相馬市）

№	遺跡名	試掘調査		試掘対象面積	年度別試掘対象面積			未試掘面積	保存面積	備 考
		終	未		年度面積	報告書	報告書			
1	S M - B ①	○		7,600㎡	H25	850㎡	(8 頁)	6,750㎡	0㎡	
2	S M - B ②	○		5,900㎡	H25	1,100㎡	(9 頁)	4,800㎡	0㎡	
3	S M - B ③	○		600㎡	H25	600㎡	(9 頁)	0㎡	0㎡	
4	S M - B ④	○		1,400㎡	H25	1,400㎡	(10 頁)	0㎡	0㎡	
5	S M - B ⑤ (東羽黒平)	○		13,900㎡	H25	9,900㎡	(10 頁)	4,000㎡	4,800㎡	H25 (3,500㎡) 発掘実施。 未試掘面積 4,000㎡のうち、300㎡ は試掘不要（第2章参照）。
6	S M - B ⑥	○		4,200㎡	H25	1,000㎡	(12 頁)	3,200㎡	0㎡	
7	S M - B ⑦	○		900㎡	H25	900㎡	(13 頁)	0㎡	0㎡	
8	S M - B ⑧	○		500㎡	H25	500㎡	(13 頁)	0㎡	0㎡	
9	S M - B ⑨	○		1,600㎡	H25	1,600㎡	(14 頁)	0㎡	0㎡	
10	S M - B ⑩	○		7,500㎡	H25	7,500㎡	(14 頁)	0㎡	0㎡	
	合 計	6	4	0	44,100㎡	終了	25,350㎡	18,750㎡	4,800㎡	保存 4,800㎡のうち、 1,300㎡未発掘。
					H25	25,350㎡			4,800㎡	

表21 相馬福島道路（阿武隈東IC～阿武隈IC間）関連試掘調査対象遺跡成果一覧（相馬市・伊達市）

№	遺跡名	試掘調査		試掘対象面積	年度別試掘対象面積			未試掘面積	保存面積	備 考
		終	未		年度面積	報告書	報告書			
1	S M - B ⑬	○		10,100㎡	H25	10,100㎡	(15 頁)	0㎡	0㎡	
2	S M - B ⑭ (鏡ヶ岩)	○		11,100㎡	H25	11,100㎡	(17 頁)	0㎡	1,000㎡	H25 (1,000㎡) 発掘実施。
3	S M - B ⑮	○		6,500㎡	H25	6,500㎡	(18 頁)	0㎡	0㎡	
4	S M - B ⑯	○		11,300㎡	-	-	-	11,300㎡	-	-
5	S M - B ⑰ (向山)	○		25,000㎡	H25	20,500㎡	(19 頁)	4,500㎡	5,300㎡	H25 (2,400㎡) 発掘実施。 未試掘面積 4,500㎡のうち、2,900㎡ は試掘不要（第2章参照）。
6	S M - B ⑱	○		17,700㎡	H20 H25	10,400㎡ 7,300㎡	[臨内分15] (15 頁)	0㎡	20㎡ 0㎡	H25 (20㎡) 調査実施。
	相馬市 計	4	1	1	81,700㎡	終了	65,900㎡	15,800㎡	6,320㎡	
7	D T - B 14 (川向)	○		9,200㎡	H24 H25	850㎡ 6,750㎡	[臨内分20] (21 頁)	1,600㎡	500㎡ 1,900㎡	H25 (2,400㎡) 発掘実施。 未試掘 1,600㎡含め終了。
8	D T - B 16	○		2,200㎡	-	-	-	2,200㎡	-	-
9	D T - B 17	○		2,400㎡	-	-	-	2,400㎡	-	-
10	D T - B 18	○		7,900㎡	-	-	-	7,900㎡	-	-
	伊達市 計	1	0	3	21,700㎡	終了	7,600㎡	14,100㎡	2,400㎡	
	合 計	5	1	4	103,400㎡	終了	73,500㎡	29,900㎡	8,720㎡	保存 8,720㎡のうち、 2,900㎡未発掘。
					H25	62,250㎡			8,200㎡	

表22 相馬福島道路（霊山道路）関連試掘調査対象遺跡成果一覧（伊達市）

№	遺跡名	試掘調査		試掘対象面積	年度別試掘対象面積			未試掘面積	保存面積	備 考
		終	未		年度面積	報告書	報告書			
1	渋谷館跡	○		5,200㎡	H25	5,200㎡	(22 頁)	0㎡	0㎡	
2	前柳館跡	○		2,100㎡	H25	1,800㎡	(23 頁)	300㎡	0㎡	
3	山岸	○		2,000㎡	-	-	-	2,000㎡	-	-
4	D T - B 2	○		1,400㎡	-	-	-	1,400㎡	-	-
5	D T - B 3	○		3,000㎡	-	-	-	3,000㎡	-	-
6	D T - B 5	○		1,000㎡	-	-	-	1,000㎡	-	-
7	D T - B 19	○		3,700㎡	-	-	-	3,700㎡	-	-
8	D T - B 20	○		6,700㎡	-	-	-	6,700㎡	-	-
9	D T - B 21	○		18,800㎡	-	-	-	18,800㎡	-	-
10	D T - B 22	○		18,200㎡	-	-	-	18,200㎡	-	-
	合 計	1	1	8	62,100㎡	終了	7,000㎡	55,100㎡	0㎡	
					H25	7,000㎡			0㎡	

※ 試掘対象面積・未試掘面積などは、工事計画などにより変更される場合がある。

## 3. 地域高規格道路（会津縦貫北道路）建設予定地

会津縦貫北道路の試掘調査は、平成18年度には喜多方市、平成22年度には湯川村まで終了した。会津若松市での試掘調査は、8箇所の遺跡及び遺跡推定地を対象として、平成23年度から行っている。このうち、平成24年度までに5箇所について試掘調査が終了している（『福島県内遺跡分布調査報告20』）。

【会津若松市】平成25年度の試掘調査は、AW-B2（鶴沼B・C遺跡）、AW-B4、AW-B5（西坂才遺跡）の3箇所について実施した。試掘対象面積は、計13,800㎡である。このうち、保存面積が確定したのは、AW-B2（鶴沼B・C遺跡）が3,300㎡、AW-B5（西坂才遺跡）が3,100㎡で、保存面積の合計は6,400㎡となる。なお、AW-B2（鶴沼B・C遺跡）の保存範囲のうち、第2沼川を境に西側が鶴沼B遺跡、東側が鶴沼C遺跡に含まれる。なお、AW-B2（鶴沼B・C遺跡）、AW-B4、AW-B5（西坂才遺跡）の3箇所は、平成25年度で試掘調査が終了した。このため、会津若松市の試掘調査はすべて終了した。

以上から、会津縦貫北道路関連の試掘調査は、調査継続・未着手の遺跡及び遺跡推定地はなく、平成25年度ですべて終了した。

表23 会津縦貫北道路関連試掘調査対象遺跡成果一覧（会津若松市）

No	遺跡名	試掘調査		試掘対象 面積	年度別試掘対象面積		未試掘面積	保存面積	備 考
		終	未		年度 面積	報告書			
1	AW-B2 (鶴沼B・C)	○		13,700㎡	H24	9,800㎡ [随分20]	300㎡	9,800㎡	H25 (13,100㎡) 発掘実施。 未試掘 300㎡含め終了。
					H25	3,600㎡ (24頁)		3,300㎡	
2	AW-B4	○		9,600㎡	H24	2,100㎡ [随分20]	0㎡	0㎡	
					H25	7,500㎡ (26頁)		0㎡	
3	AW-B5 (西坂才)	○		11,600㎡	H24	5,800㎡ [随分20]	3,100㎡	5,800㎡	H25 (7,800㎡) 発掘実施。 未試掘 3,100㎡含め終了。
					H25	2,700㎡ (27頁)		3,100㎡	
合 計		3	0	34,900㎡	終了	31,500㎡	3,400㎡	22,900㎡	保存 22,900㎡のうち、 1,100㎡未発掘。
					H25	13,800㎡		6,400㎡	

## 4. 復興交付金事業（市街地復興効果促進）新地町福田地区土取場候補地

新地町福田地区土取場候補地内では、平成25年度に福島県教育委員会が表面調査を実施し、4箇所の遺跡推定地を確認した。試掘調査に関しても、福島県教育委員会が進めているが、一部について財団法人福島県文化振興財団に委託した。以下の内容は、委託した試掘調査の結果である。

【新 地 町】平成25年度の試掘調査は、ST-FD、B1(10,000㎡)、ST-FD、B2(8,000㎡)の2箇所の遺跡推定地について実施した。試掘対象面積は、計18,000㎡である。その結果、この2箇所の遺跡推定地とも保存範囲が確定し、その面積は、ST-FD、B1(7,200㎡)、ST-FD、B2(5,700㎡)で、保存面積の合計は12,900㎡となる。ST-FD、B1は北原製鉄遺跡に含め、ST-FD、B2は小鯨遺跡として登録することとなった。

表24 新地町福田地区土取場関連試掘調査対象遺跡成果一覧（新地町）

No	遺跡名	試掘調査		試掘対象 面積	年度別試掘対象面積		未試掘面積	保存面積	備 考
		終	未		年度 面積	報告書			
1	ST-FD、B1 (北原製鉄)	○		10,000㎡	H25	10,000㎡ (28頁)	0㎡	7,200㎡	
2	ST-FD、B2 (小鯨)	○		8,000㎡	H25	8,000㎡ (31頁)	0㎡	5,700㎡	
合 計		2	0	18,000㎡	終了	18,000㎡	0㎡	12,900㎡	保存 12,900㎡は、H25 未発掘。
					H25	18,000㎡		12,900㎡	

---

福島県文化財調査報告書第502集

**福島県内遺跡分布調査報告 21**

平成26年11月21日発行

編 集 公益財団法人福島県文化振興財団  
☎960-8116 福島市春日町5-54  
発 行 福島県教育委員会  
☎960-8688 福島市杉妻町2-16  
印 刷 八幡印刷株式会社  
☎970-8026 いわき市平字田町82-13

---

2 0 1 4